

【道路建設課所管事業審議資料】

- 再評価対象箇所一覧表 p 1

- 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について
 - 道路改築事業（公共地域連携推進） p 2
 - 道路改築事業（社会資本整備総合交付金） p 3

- 平成24年度 再評価実施箇所（附図）
 - 道路改築事業（主）恵那蛭川東白川線 東雲工区 p 4
 - 道路改築事業（国）256号 和良金山道路 p 5
 - 道路改築事業（国）257号 川上Ⅱ期バイパス p 6
 - 道路改築事業（国）361号 上ヶ洞バイパス p 7
 - 道路改築事業（主）神岡河合線 細江工区 p 8
 - 道路改築事業（主）国府見座線 十三墓峠工区 p 9

- パワーポイント
 - 道路改築事業（主）恵那蛭川東白川線 東雲工区 p 10～19
 - 道路改築事業（国）256号 和良金山道路 p 20～27
 - 道路改築事業（国）257号 川上Ⅱ期バイパス p 28～35
 - 道路改築事業（国）361号 上ヶ洞バイパス p 36～43
 - 道路改築事業（主）神岡河合線 細江工区 p 44～50
 - 道路改築事業（主）国府見座線 十三墓峠工区 p 52～58

平成24年度 再評価対象箇所一覧表11月30日審議箇所

[県土整備部道路建設課]

番号	事業名	路線・河川名	市町村名	採択年度	完了予定年度	事業概要		全体事業費 (百万円)	実施済み額 (百万円)		進捗率 (%)		経過年数 (H25.3現在)	政策との位置付け	関連事業の進捗状況	社会経済情勢等の変化及び地元の意向	環境との調和への配慮事項	事業費削減	費用対効果分析	対応方針 (案)	特記事項
						全体事業量 (km)	事業実施量 (km)		用地補償費 工事費等	用地補償費 工事費等	用地補償費 工事費等	用地補償費 工事費等									
1	道路改善事業(社会資本整備総合交付金)	(主) 志那壁川真白川線東雲工区	志那市	H13	H27	1.16	0.4	4,400 49 4,351	2,226 47 2,179	51% 97% 49%	12年	高速道路へのアクセス向上 両重線制区間の解消	-	促進要望強い	LED照明の採用	仮設工の見直し検討	2.0 (一)	継続			
2	道路改善事業(公共地域連携推進)	(国)256号和良金山道路	下呂市郡上市	H20	H27	2.7	0.0	6,400 28 6,372	1,169 26 1,143	18% 93% 18%	5年	県土1700km帯格幹線ネットワーク構築の推進、高速道路へのアクセス向上 災害時に有効に機能するネットワーク	-	促進要望強い	絶滅危惧種に配慮した工事実施	トンネル断面の縮小	1.2 (1.2)	継続			
3	道路改善事業(社会資本整備総合交付金)	(国)257号川上II期バイパス	下呂市	H20	H28以降	1.8	0.0	4,071 30 4,041	362 20 342	9% 67% 8%	5年	県土1700km帯格幹線ネットワーク構築の推進、災害時に有効に機能するネットワークの確保	-	促進要望強い	希少猛禽類に配慮した工事実施	現場発生土の有効利用	1.1 (一)	継続			
4	道路改善事業(社会資本整備総合交付金)	(国)361号上ヶ洞バイパス	高山市	H15	H28以降	2.14	0.0	6,000 6 5,994	2,261 6 2,255	38% 100% 38%	10年	高速道路へのアクセス向上 陸路・線形不良箇所への解消による円滑な交通の確保	-	促進要望強い	希少猛禽類に配慮した工事実施	現場発生土の有効利用	1.2 (一)	継続			
5	道路改善事業(社会資本整備総合交付金)	(主) 神岡河合線細江工区	飛騨市	H14	H28以降	1.48	0.0	1,674 442 1,232	968 238 730	52% 54% 67%	11年	地域間の観光交流や産業集積の推進 陸路・線形不良箇所への解消による円滑な交通の確保	-	促進要望強い	LED照明の採用	現場発生土の有効利用	1.9 (一)	継続			
6	道路改善事業(社会資本整備総合交付金)	(主) 国府見産線十三基峠工区	高山市	H20	H28以降	1.74	0.0	2,414 14 2,401	471 14 458	20.0% 100.0% 13.0%	5年	地域間の観光交流や産業集積の推進 陸路・線形不良箇所への解消による円滑な交通の確保	-	促進要望強い	LED照明の採用	他事業に充てる現場発生土の有効利用	1.1 (一)	継続			

※()は前回B/C

平成24年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 道路建設課

○事業制度について	事業名	道路改築事業（公共地域連携推進）	
	事業目的	高規格幹線道路、地域高規格道路及び空港・港湾等へのアクセス道路等地域の交流・連携を促進すること。	
	採択基準	地域間の交流・連携を促進するために行われる地域高規格道路の整備。	
	概要 (メニュー)	現道の拡幅や線形改良またはバイパス等の建設	
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≪B≫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走行時間短縮便益 ・ 走行経費減少便益 ・ 交通事故減少便益
		その他項目	
	費用 ≪C≫ の算定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用の積み上げ基準＝道路整備に要する事業費＋道路維持管理に要する事業費 現在価値算出のための社会的割引率：4% 基準年次：評価時点 検討年数：50年間 	
	費用便益比の基準	費用便益比 (B/C) 1.0以上	

平成24年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 道路建設課

○事業制度について	事業名	道路改築事業（社会資本整備総合交付金）	
	事業目的	地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ること。	
	採択基準	地域住民の日常生活の安全性若しくは利便性の向上を図るために必要であり、又は快適な生活環境の確保若しくは地域の活力の創造に資すると認められるもの。	
	概要 (メニュー)	現道の拡幅や線形改良またはバイパス等の建設	
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち 貨幣換算する項目 ≪B≫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走行時間短縮便益 ・ 走行経費減少便益 ・ 交通事故減少便益
		その他項目	
	費用 ≪C≫ の算定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用の積み上げ基準＝道路整備に要する事業費＋道路維持管理に要する事業費 現在価値算出のための社会的割引率：4% 基準年次：評価時点 検討年数：50年間 	
	費用便益比の基準	費用便益比（B/C）1.0以上	

平成24年度 再評価実施箇所 (附図)

担当課 [道路建設課]

番 号	1	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 (社会資本整備総合交付金) 主要地方道 恵那蛭川東白川線 東雲工区
事業実施箇所	恵那市大井町丸池 ～恵那市笠置町毛呂窪		事業主体 岐阜県
採択年度	平成13年度	完了予定年度	平成27年度
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業 (経過措置)		
事業目的	<p>主要地方道恵那蛭川東白川線は、恵那市を起点とし中津川市蛭川を經由し、加茂郡東白川村に至る延長約36kmで幹線道路である。現道の木曾川を渡河する東雲橋は昭和5年に建設された橋であり、老朽化が進み狭小幅員であるとともに、前後区間も急峻な地形であるため、拡幅も困難なことから、新橋を含めたバイパス整備が急務となっている。事業区間は、この新橋を含む東雲バイパスの一部を整備するものであり、雨量通行規制区間の解消、橋梁の老朽化に対応した安全な交通の確保、中央自動車道 (恵那IC) へのアクセス向上を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：1160m 車道幅員：3.00m×2車線、歩道2.5m 主要構造物：新東雲橋 L=349m</p>		
概要図	<p>至名古屋 起点：恵那市大井町丸池 写真① 写真③ 新東雲橋L=349m (主)恵那蛭川東白川線 交付金事業(東雲工区) L=1,160m 県単事業 L=240m 写真② 終点：恵那市笠置町毛呂窪 至東白川村</p>		
	<p>(写真①: 計画状況) (写真②: 計画状況) (写真③: 計画状況)</p>		

平成24年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	2	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業（地域連携推進） 濃飛横断自動車道 和良金山道路		
事業実施箇所	郡上市和良町方須 ～下呂市金山町乙原	事業主体	岐阜県		
採択年度	平成20年度	完了予定年度	平成27年度		
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年間が経過した時点で継続中の事業（経過措置）				
事業目的	<p>濃飛横断自動車道は郡上市を起点とし、中津川市へ至る延長約80kmの道路である。当該事業はこのうち郡上市和良町方須から下呂市金山町乙原の2,700m区間についてバイパスを整備するものであり、県土1700km骨格幹線ネットワーク構想の推進、地域間の観光交流や産業振興の推進、災害時に有効に機能するネットワークの確保を目的としている。</p>				
事業概要	<p>事業延長：2,700m 車道幅員：3.25m×2車線 主要構造物：和良川橋L=80m、和良金山トンネルL=1,846m （※構造物名は仮称）</p>				
概要図					
	(写真①: 現道状況)		(写真②: 金山下呂道路)		

平成24年度 再評価実施箇所 (附図)

担当課 [道路建設課]

番 号	3	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 (社会資本整備総合交付金) 一般国道257号 川上Ⅱ期バイパス
事業実施箇所	下呂市馬瀬川上 ～下呂市馬瀬川上	事業主体	岐阜県
採択年度	平成20年度	完了予定年度	平成28年度以降
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年間が経過した時点で継続中の事業 (経過措置)		
事業目的	<p>一般国道257号は静岡県浜松市を起点とし、岐阜県高山市へ至る延長約208kmの幹線道路である。当該事業はこのうち下呂市馬瀬川上の約1,800m区間についてバイパスを整備するものであり、県土1700km骨格幹線ネットワーク構想の推進、地域間の観光交流や産業振興の推進、災害時に有効に機能するネットワークの確保、隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：1,800m 車道幅員：3.00m×2車線 主要構造物：川上第2トンネルL=1,215m (※構造物名は仮称)</p>		
概要図	<p>写真①: 現道の状況</p> <p>写真②: 現道の状況</p>		

平成24年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	4	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業（社会資本整備総合交付金） 一般国道361号 上ヶ洞バイパス	
事業実施箇所	たかやましたかかわちようかみがほら 高山市高根町上ヶ洞 ～ たかやましたかかわちようかみがほら 高山市高根町上ヶ洞		事業主体	岐阜県
採択年度	平成15年度	完了予定年度	平成28年度以降	
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間に経過した時点で継続中の事業（経過措置）			
事業目的	<p>一般国道361号は、岐阜県高山市を起点とし長野県伊那市に至る延長約171km（県内延長約48km）で、緊急輸送道路にも指定されている重要な幹線道路である。当該事業は、昭和40年頃完成した高根第一ダムの建設によりより付け替えられた区間の未改良部をトンネルによるバイパスを整備するものであり、雨量規制区間の解消、現道に代わる新たな緊急輸送路の確保、隣接県との連携及び圏域間の連携強化に寄与、観光交流や産業振興の推進を目的としている。</p>			
事業概要	<p>事業延長：2140m 車道幅員：3.00m×2車線 主要構造物：上ヶ洞トンネル L=1981m</p>			
概要図	 <p>(写真①:起点側の施工状況)</p> <p>(写真②:トンネルの施工状況)</p>			

平成24年度 再評価実施箇所 (附図)

担当課 [道路建設課]

番 号	5	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業 (社会資本整備総合交付金) 主要地方道 神岡河合線 細江工区
事業実施箇所	飛騨市古川町太絵 ～飛騨市古川町杉崎	事業主体	岐阜県
採択年度	平成14年度	完了予定年度	平成28年度以降
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業 (経過措置)		
事業目的	<p>主要地方道神岡河合線は、飛騨市神岡町を起点とし、飛騨市古川町に至る延長約30kmの幹線道路である。当該事業は、神岡河合線の一部区間を整備するものであり、国道41号の代替路としての機能、隘路・線形不良箇所の解消による安全・安心な交通の確保を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：1480m 車道幅員：3.00m×2車線 歩道幅員：2.50m (片側)</p>		
概要図	<p>主要地方道 神岡河合線 細江工区 L=1,480m</p> <p>終点：飛騨市古川町杉崎</p> <p>起点：飛騨市古川町太絵</p> <p>(主)神岡河合線</p> <p>(県) 岐阜古川線</p> <p>(県) 古川国府線</p> <p>一般国道41号</p> <p>一般国道</p> <p>主要地方道</p> <p>一般県道</p> <p>事業区間</p> <p>一般国道</p> <p>主要地方道</p> <p>一般県道</p> <p>(写真①: 施工状況)</p> <p>(写真②: 施工状況)</p>		

平成24年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	6	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業（社会資本整備総合交付金） 主要地方道 国府見座線 十三墓峠工区	
事業実施箇所	たかやましこくみちようようかまち 高山市国府町八日町 ～ たかやましこくみちようようかまち 高山市国府町八日町	事業主体	岐阜県	
採択年度	平成20年度	完了予定年度	平成28年度以降	
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業（経過措置）			
事業目的	<p>主要地方道国府見座線は、高山市国府町を起点とし、高山市上宝町に至る延長約29kmの幹線道路である。当該事業は、神岡河合線の線形不良区間を整備するものであり、観光地へのアクセス性が向上と観光交流や産業振興が活性化、隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保を目的としている。</p>			
事業概要	<p>事業延長：1740m 車道幅員：2.75m×2車線</p>			
概要図	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>(写真①: 施工状況)</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>主要地方道国府見座線 十三墓峠工区 L=1,740m</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>(写真②: 施工状況)</p> </div> </div>			

平成24年度 岐阜県の道路整備について

平成24年11月

岐阜県 県土整備部 道路建設課

岐阜県における道路事業の整備方針(重点目的)

考え方

道路は、災害に強い県土づくりなど安全・安心の面でも、産業振興や観光交流など「活力」を支える基盤としても、また、通学路や福祉施設へのアクセス整備など教育や福祉の面においても、多面的に県民の生活を守り支えているものであり、その整備は、国や県の重要な責務として着実に推進することが基本である。

また、厳しい財政状況、限られた予算の中で、効率的、効果的な道路整備を地域バランスに配慮しながら計画的に行い、地域の課題に的確に対応していくよう努めている。

重点目標

岐阜県では、平成18年度に策定した「県土整備ビジョン」を踏まえつつ、「活力」、「安全・安心」を重点目標とし、道路整備に取り組んでいる。

活力

● 物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

- ・ 県土1700km骨格幹線ネットワーク構想の推進
- ・ 渋滞緩和による円滑な交通の確保
- ・ 観光交流や産業振興の推進
- ・ 高速道路へのアクセス向上

安全・安心

● 災害に強い県土づくりの根幹となる道路整備

● 地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

- ・ 災害時に有効に機能するネットワークの確保
- ・ 雨量規制区間の解消
- ・ 隘路・線形不良箇所による円滑な交通の確保

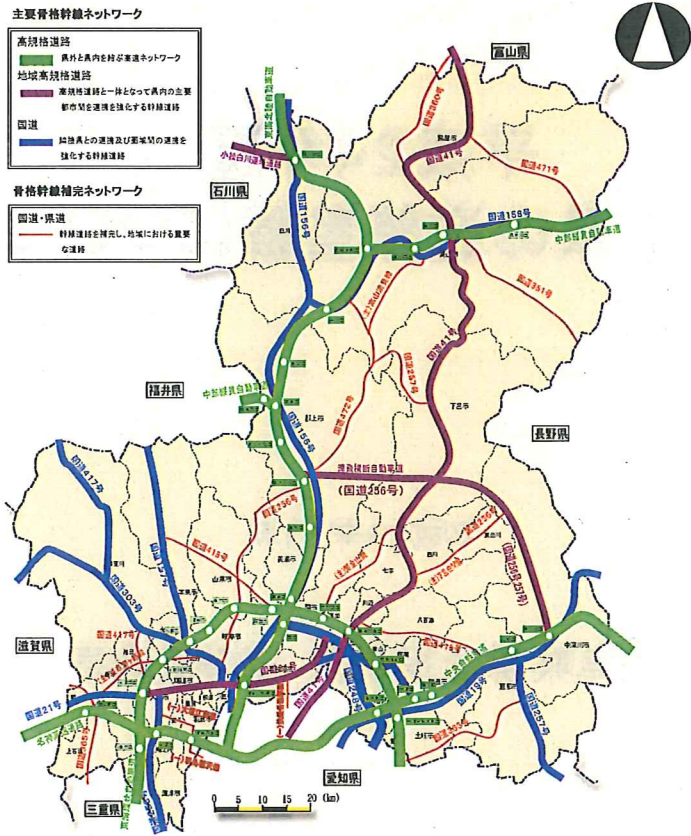
道路事業の整備方針 ～県土1700km骨格幹線ネットワーク構想～

主要骨格幹線ネットワーク

- **高規格道路**
県内と県内を結ぶ基幹ネットワーク
- **地域系高規格道路**
高規格道路と一体となって県内の主要都市間を連絡を強化する幹線道路
- **国道**
知徳県との連携及び近畿間の連携を強化する幹線道路

骨格幹線補完ネットワーク

- **国道・県道**
幹線道路を補完し、地域に對ける重要な道路



事業再評価
道路改築事業

主要地方道 恵那蛭川東白川線
東雲工区(東雲バイパス)

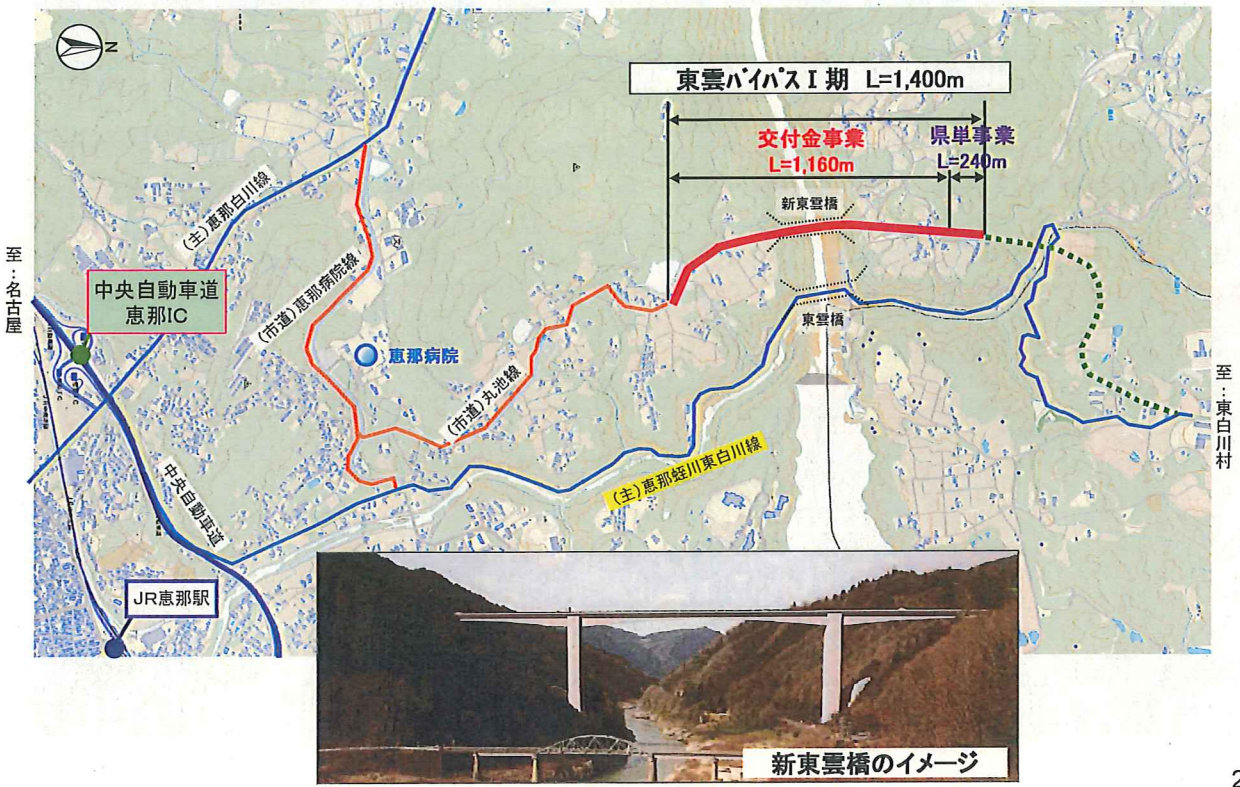
県土整備部道路建設課

平成24年11月

位置図①



位置図 ②



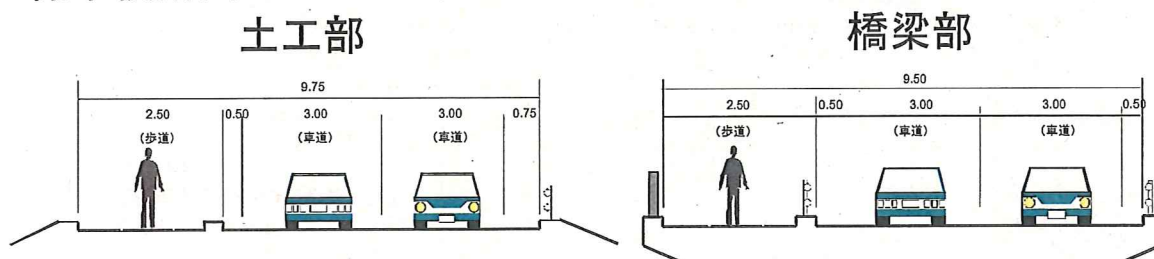
位置図 ③



事業概要

- えなし おおいちよう まるいけ えなし かさぎちよう けろくぼ
- ◆起 終 点：恵那市大井町丸池～恵那市笠置町毛呂窪
 - ◆全体延長：1160m（内橋梁延長：349m）
 - ◆総事業費：約44億円
 - ◆事業着手：平成13年度
 - ◆完成予定：平成27年度
 - ◆幅 員：車道 3.00m×2車線
歩道 2.5m（片側）

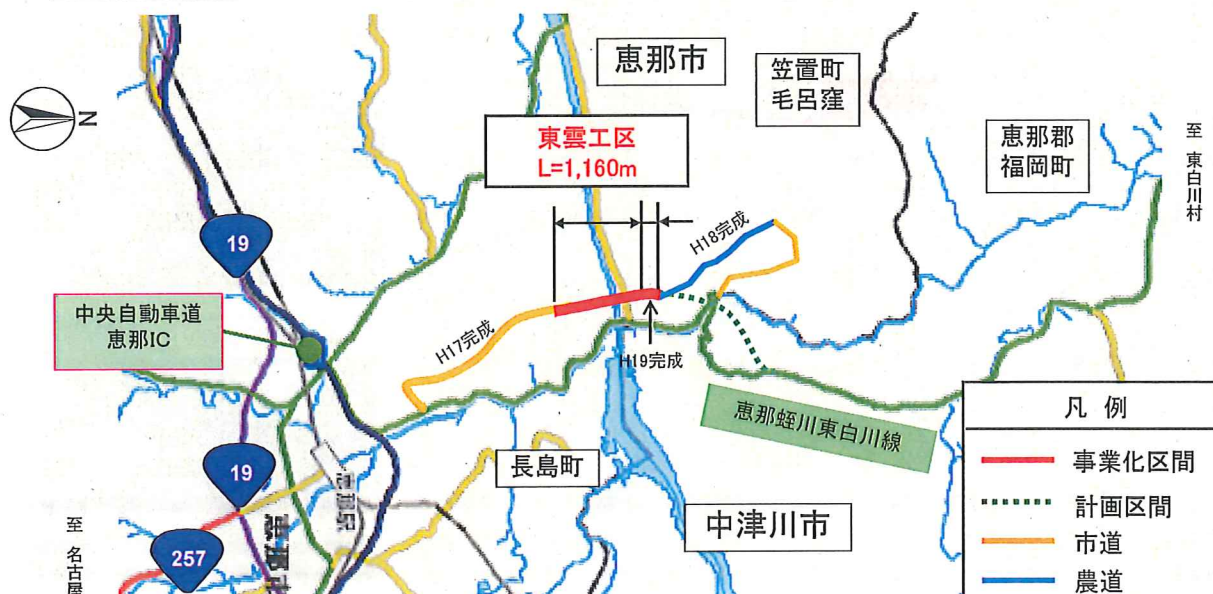
標準横断図



4

社会情勢の変化

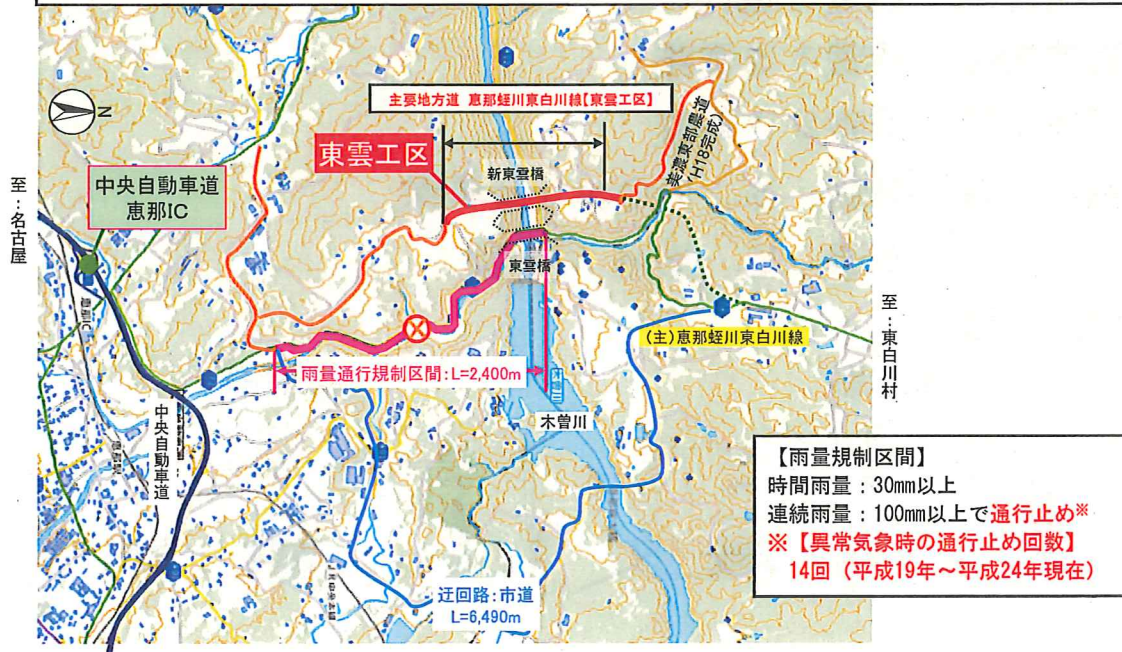
- 東雲工区を整備することで、既に整備済の市道や広域農道と一体となり、恵那北部地域及び東白川村方面から恵那インターを結ぶ南北ネットワークを確立



事業の目的①

安全・安心：雨量通行規制区間の解消

- 現道の恵那蛭川東白川線は、雨量通行規制区間が存在
- 雨量等による規制時にもアクセス路が確保

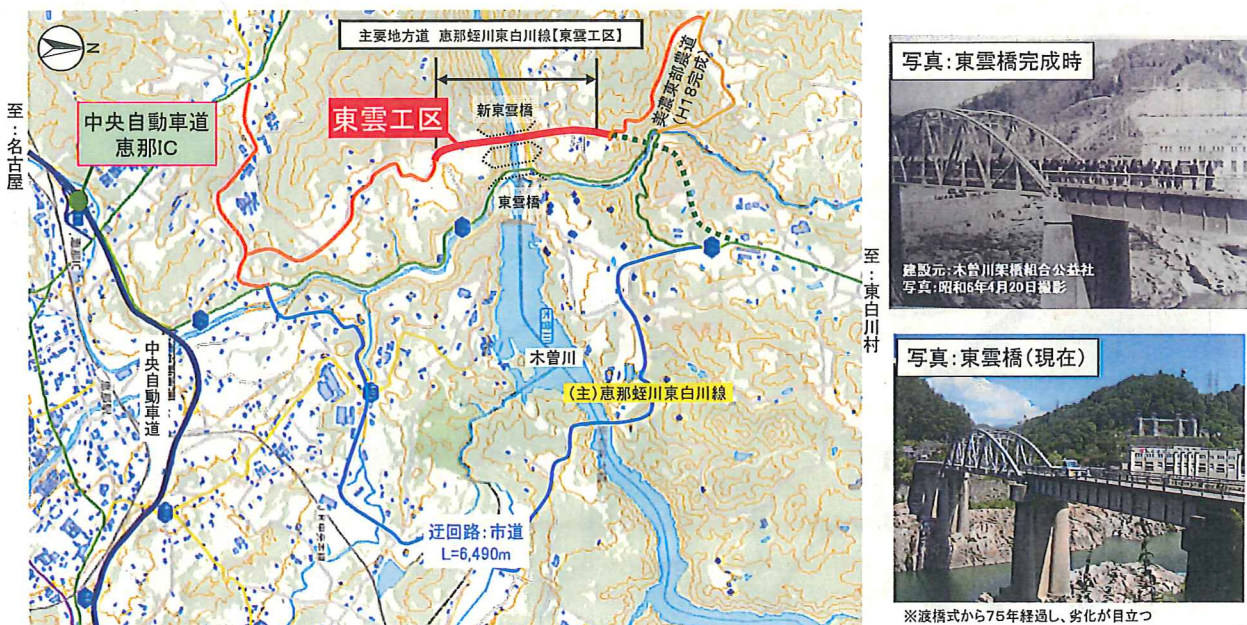


6

事業の目的②

安全・安心：橋梁の老朽化に対応した安全な交通の確保

- 現道の東雲橋は昭和5年に建設され、劣化が進行し、橋の架け替えが必要
- 東雲工区の供用により円滑な交通を確保

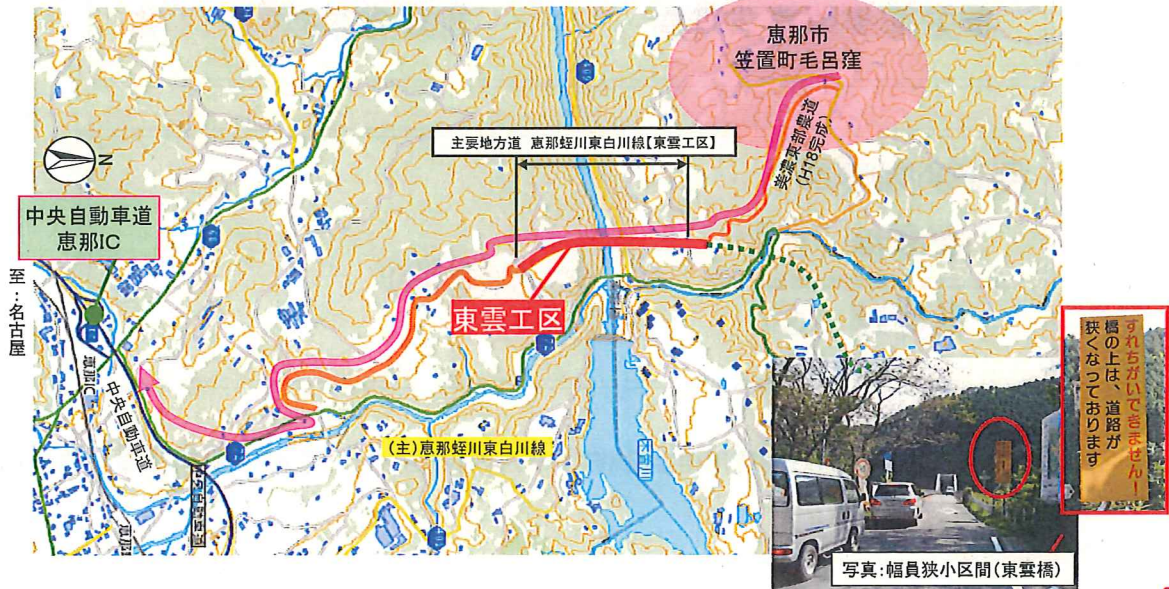


7

事業の目的③

活力：中央自動車道（恵那IC）へのアクセス向上

- 主要地方道恵那蛭川東白川線（東雲バイパス）は、恵那市笠置町毛呂窪～中央自動車道（恵那IC）への重要なアクセス道路として機能
- 線形も悪く幅員狭小のため、大型車のすれ違いが困難



8

進捗状況

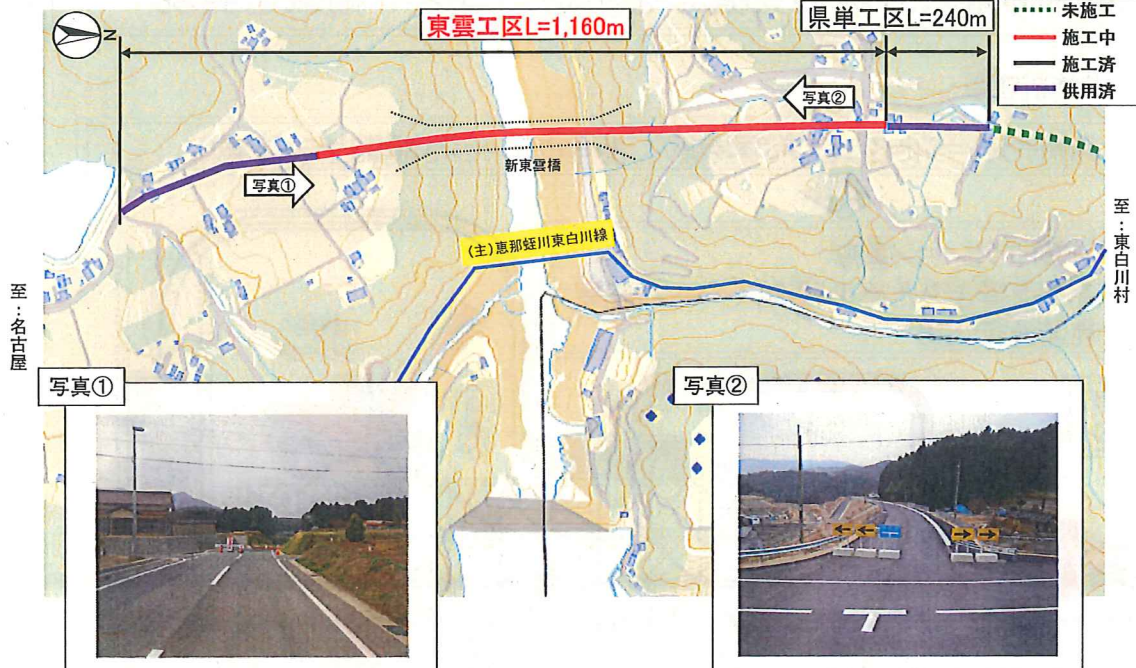
全体進捗率 51%*

用地補償進捗率97%*

工事進捗率50%*

(うち用地取得進捗率 100%)

※ 平成24年度末事業費ベース



費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 83%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 16%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 1%

投資的効果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 2.0(\text{全体})$$

※費用便益分析マニュアル(H20.11 国土交通省)に基づき算出

10

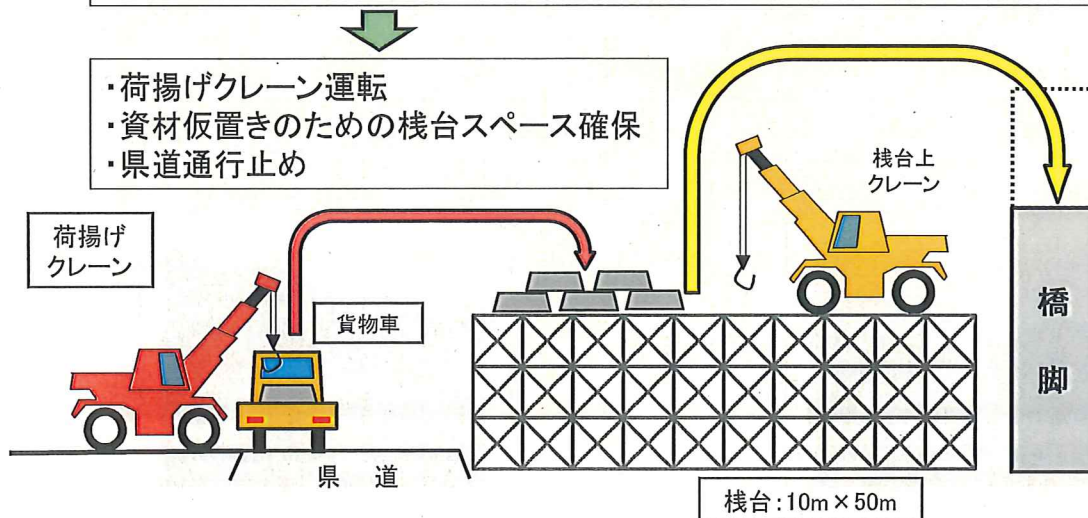
コスト縮減の取り組み

◆ 資材搬入方法の見直し検討（当初案）

■ 資材搬入方法の見直しを行い、コスト縮減を実現

【当初計画】

- ・荷揚げクレーンにて棧台まで資材搬入、棧台上クレーンで橋脚上に資材搬入



- ・荷揚げクレーン運転
- ・資材仮置きのための棧台スペース確保
- ・県道通行止め

コスト縮減の取り組み

◆ 資材搬入方法の見直し検討（変更案）

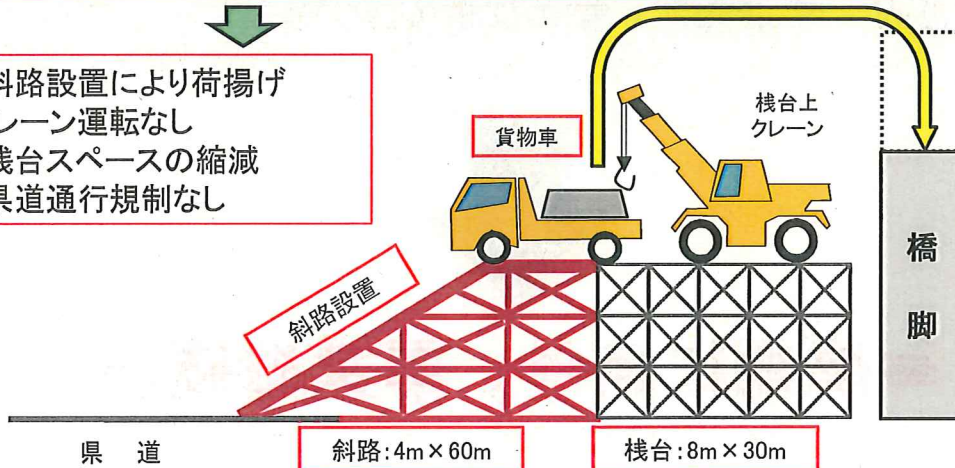
■ 資材搬入方法の見直しを行い、コスト縮減を実現

約5千万円のコスト縮減

【変更計画】

・斜路設置により、貨物車で棧台まで資材運搬、クレーンで直接資材搬入

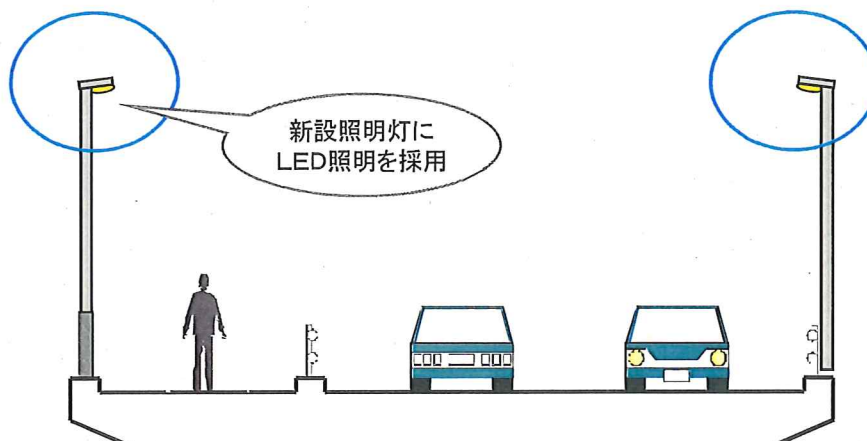
・斜路設置により荷揚げクレーン運転なし
・棧台スペースの縮減
・県道通行規制なし



12

自然環境への配慮

■ 長寿命かつ低消費電力であるLED照明を橋梁新設照明灯に採用し、蛍光ランプを用いた場合に比べ環境負荷を低減する

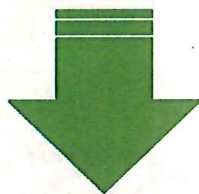


13

今後の方針

○東雲バイパスの完成は、高速道路へのアクセス向上に寄与し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元住民及び恵那市から現道の拡幅やアクセス性の向上を求め、早期完成・事業促進の強い要望



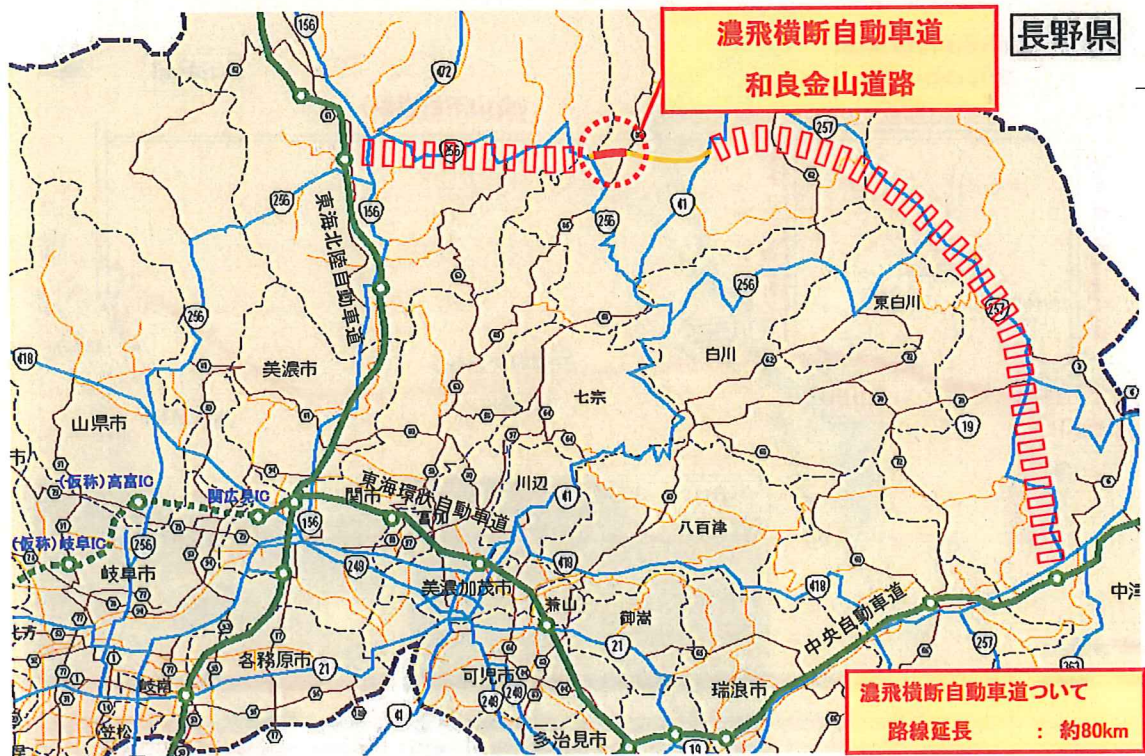
= 供用に向け、事業継続 =

事業再評価
道路改築事業

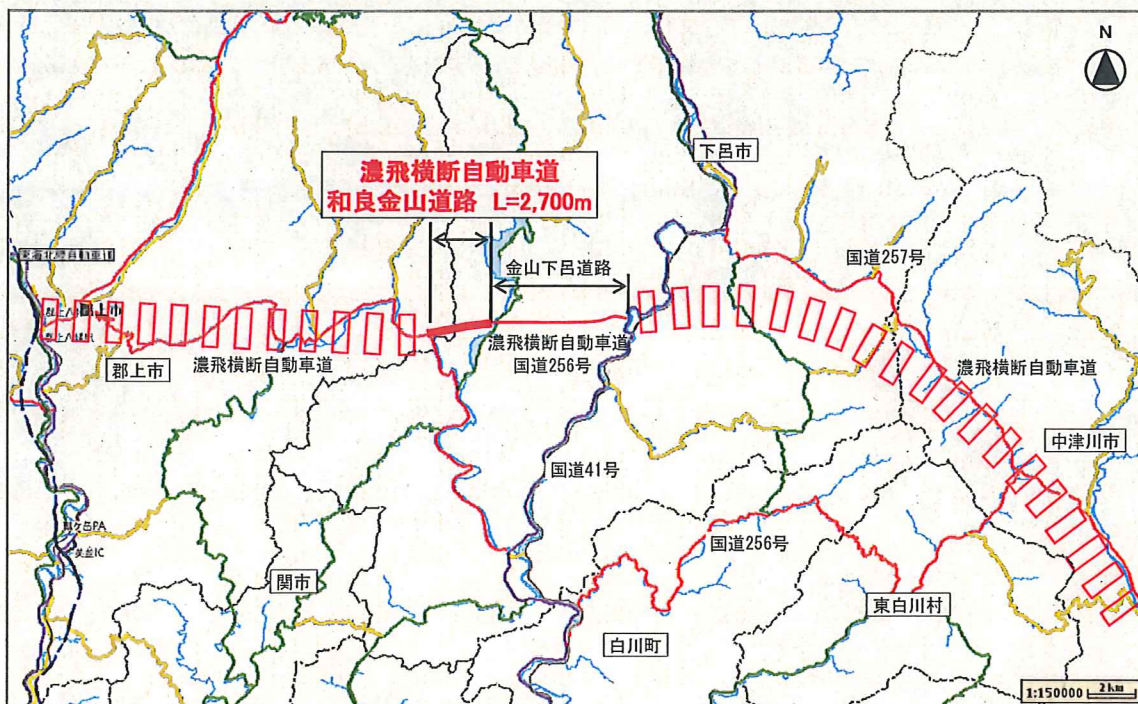
濃飛横断自動車道
(和良金山道路)

県土整備部道路建設課
平成24年11月

位置図①

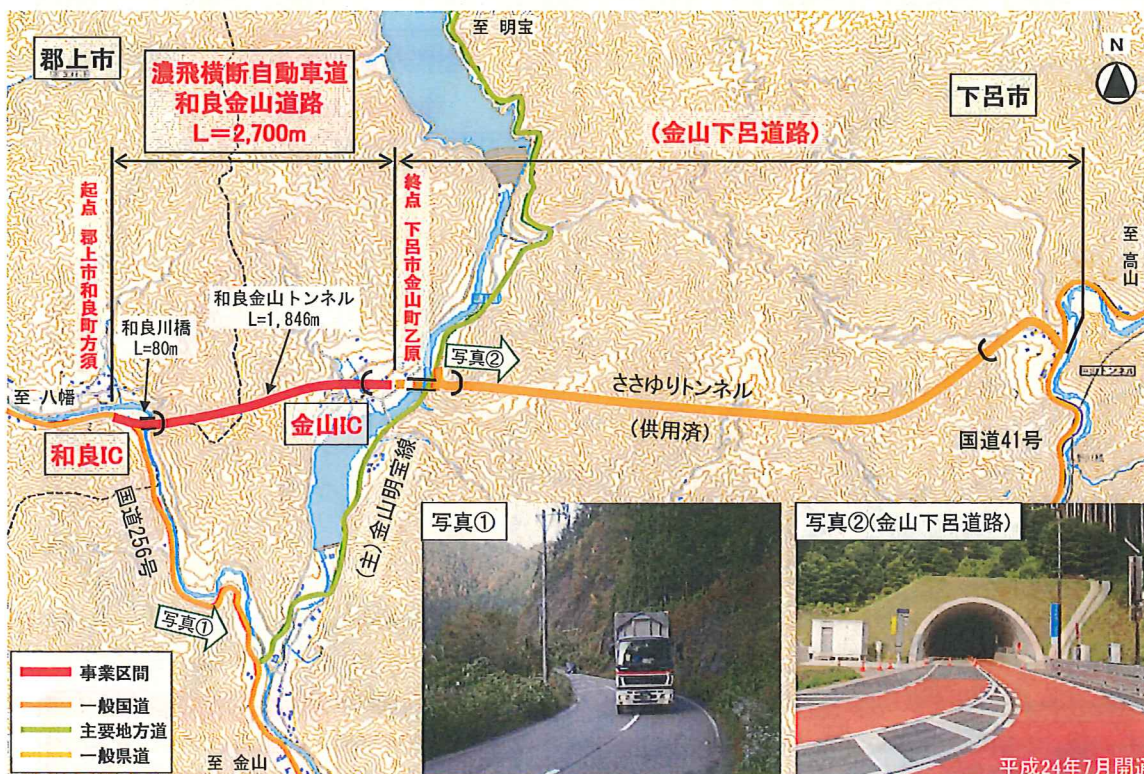


位置図②



2

位置図③



平成24年7月開通

※構造物名・IC名は仮称

3

社会情勢の変化

◆ 金山下呂道路の開通

■ 隣接する濃飛横断自動車道・金山下呂道路が開通

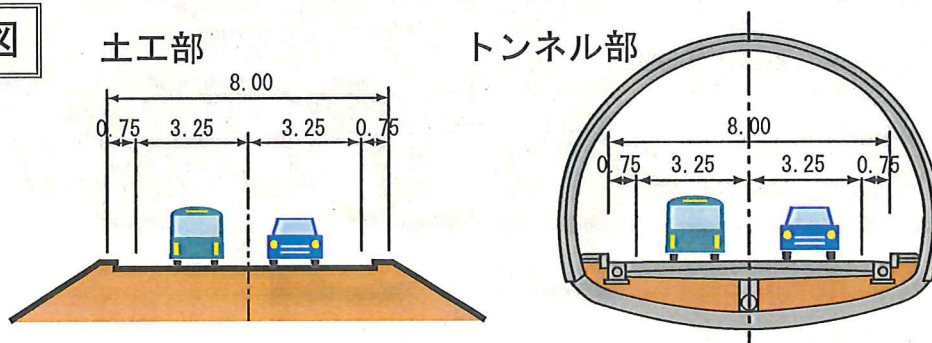


4

事業概要

- ぐじょうし わ らちょうほうす げ ろ しかなやまちょうおっぱら
- ◆ 起 終 点 : 郡上市和良町方須～下呂市金山町乙原
 - ◆ 全体延長 : 2,700m
(トンネル延長 L = 1,846m、橋梁延長 L = 80m)
 - ◆ 総事業費 : 約64億円
 - ◆ 事業着手 : 平成20年度
 - ◆ 完成予定 : 平成27年度
 - ◆ 幅 員 : 車道 3.25m × 2車線

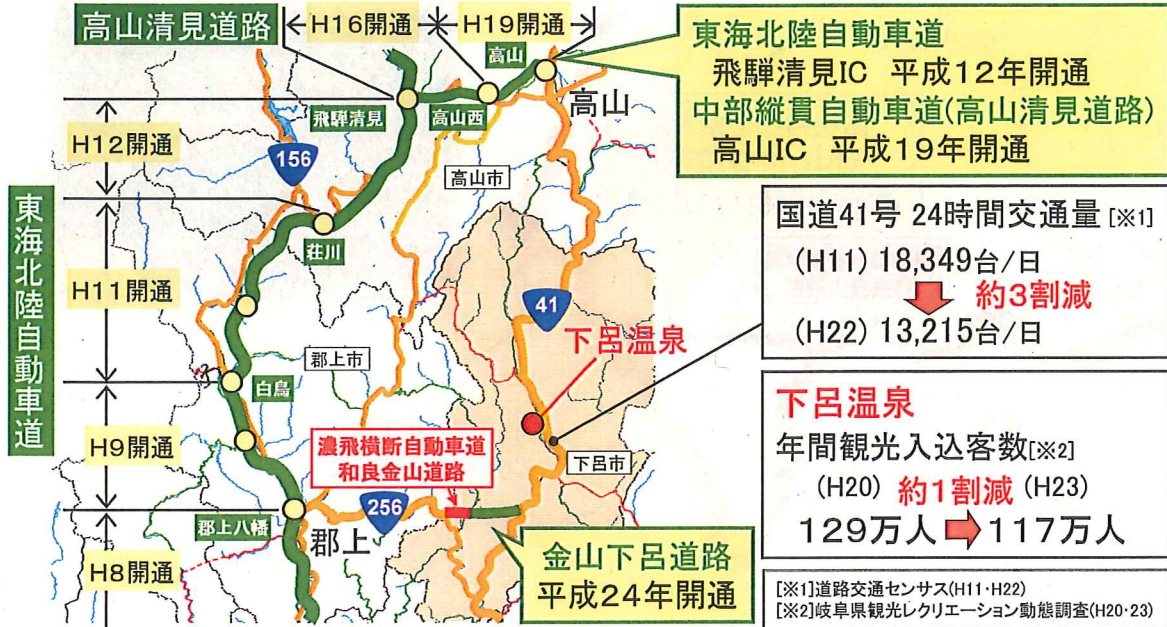
標準横断図



社会情勢の変化

◆下呂温泉の観光入込客数の変化

- 周辺で高速道路や高規格道路の整備が進行
- 高速道路の空白地帯である下呂温泉は、観光入込客数が低迷

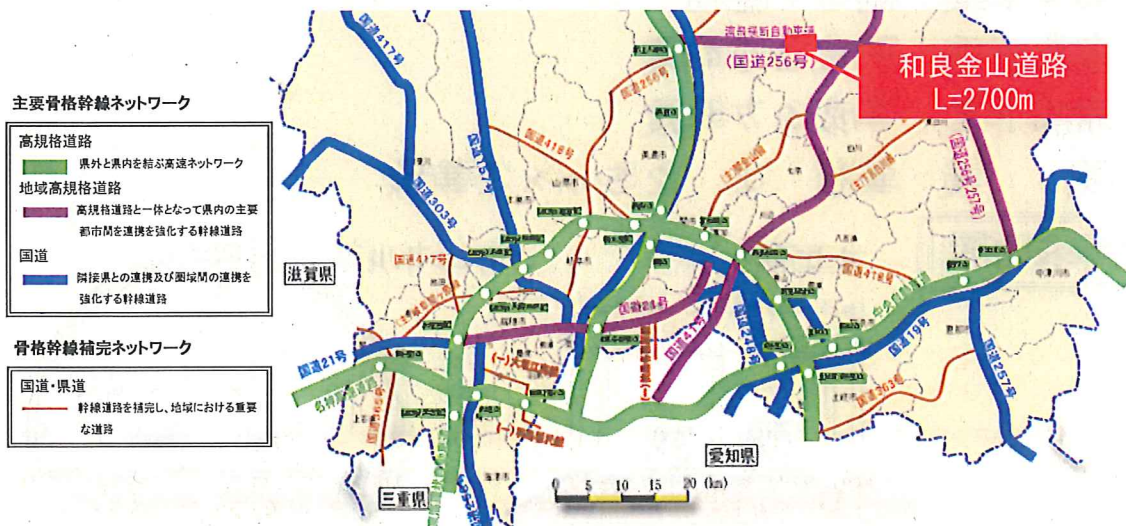


6

事業の目的 ①

活力: 圏域間の連携強化に寄与

- 濃飛横断自動車道は、岐阜県の道路事業の整備方針である「県土1700km骨格幹線ネットワーク構想」のうち、「主要骨格幹線ネットワーク道路」に位置付け

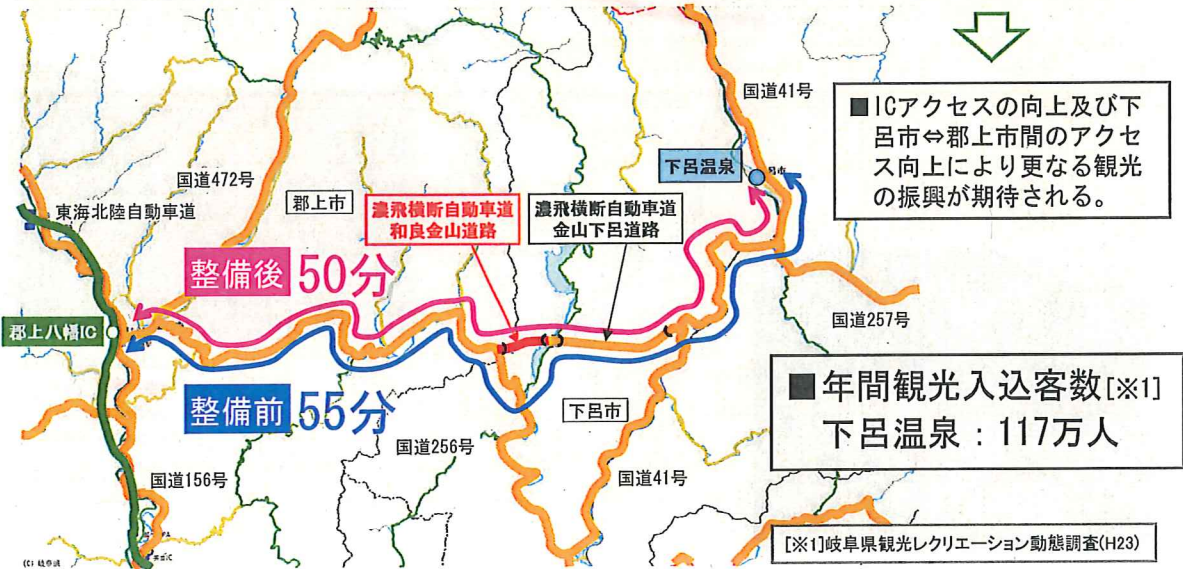


7

事業の目的②

活力: 地域間の観光交流や産業振興の推進

- 濃飛横断道和良金山道路の整備により、郡上八幡 I C から『下呂温泉』へのアクセスが向上し、更なる観光の振興が期待される。
- 郡上八幡 I C から下呂市までの所要時間が5分短縮 (55分→50分)



8

事業の目的③

安全・安心: 災害時に有効に機能するネットワークの確保

- 国道41号は第1次緊急輸送道路、国道256号は第2次緊急輸送道路に指定されており、当該区間は迂回路としての機能を担う。
- 国道256号に防災点検箇所が存在し、落石の危険性がある。



進捗状況

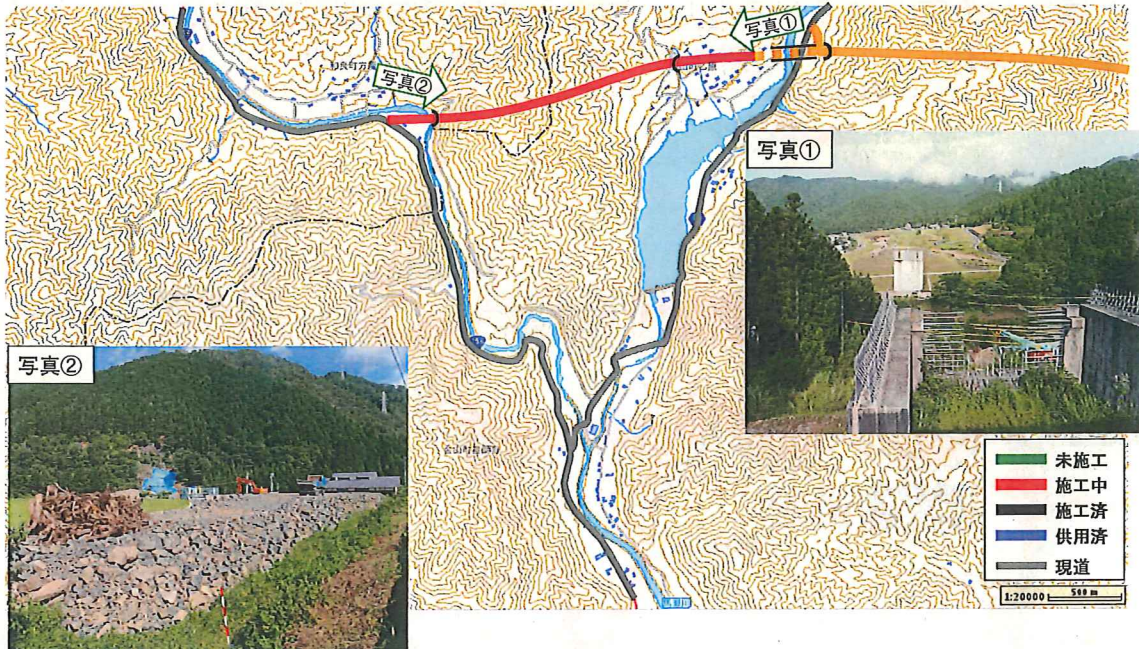
全体進捗率 18%*

用地補償進捗率 93%*

工事進捗率 18%*

(うち用地取得進捗率 100%)

※平成24年度末事業費ベース



10

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 82%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 13%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 5%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.2$$

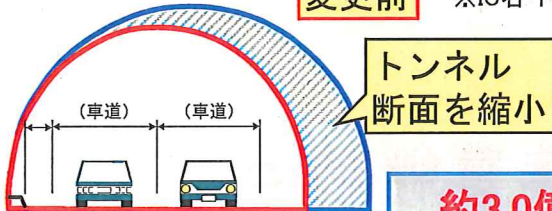
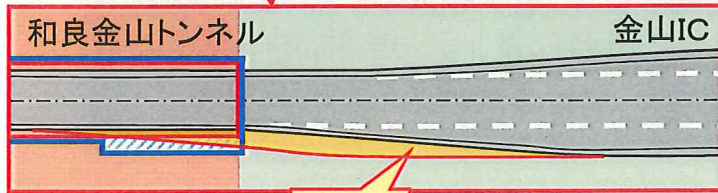
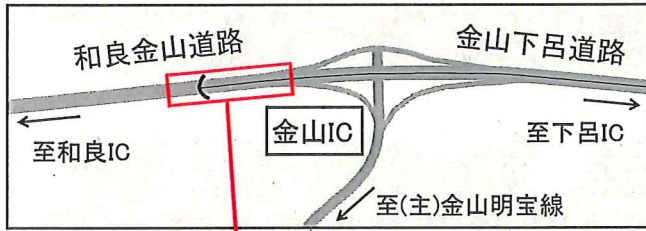
前回着手時
(H20年度)
1.2

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

11

コスト削減の取り組み

◆トンネル断面の縮小



約3.0億円のコスト削減

変更前

合流車線がトンネル内に入っているため
2車線以上の断面が必要

変更後

ランプの縦断勾配を6%から8%に変更することにより
合流車線をトンネル外に
ずらし、トンネル断面を縮小

12

自然環境への配慮

◆絶滅危惧種に配慮した橋梁設計

■事前に生物調査を実施し、「オオサンショウウオ」の生息が確認されたため、有識者のアドバイスを受けながら設計・工事を実施。

＜事前調査＞
・周辺に配慮すべき生物(オオサンショウウオ)確認

＜専門家へのヒアリングおよび本調査＞
・施工中の繁殖状況をモニタリング

＜専門家へのヒアリング＞
・生息環境を維持するよう配慮が必要
(郡上北高校教諭)

＜設計段階＞
・橋梁を2径間から1径間に変更し、河川内への橋脚の設置を回避
＜工事中＞
・オオサンショウウオに配慮し、上部工架設に送り出し工法を採用
・改変部に大型土のうを設置し、濁水の発生を抑制

絶滅危惧種「オオサンショウウオ」



※オオサンショウウオ
(有尾目オオサンショウウオ科)
●分布[岐阜県HPより引用]
岐阜県以西の本州、四国、九州に分布。
県内では、長良川流域及び飛騨川流域などに分布。
●貴重性
環境省RDL 絶滅危惧II類
岐阜県RDL 絶滅危惧II類

13

今後の方針

○和良金山道路の完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元商工会、観光協会、下呂市及び郡上市等から地域間の観光交流や産業振興のための重要な路線として、早期完成・事業促進の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

事業再評価 道路改築事業

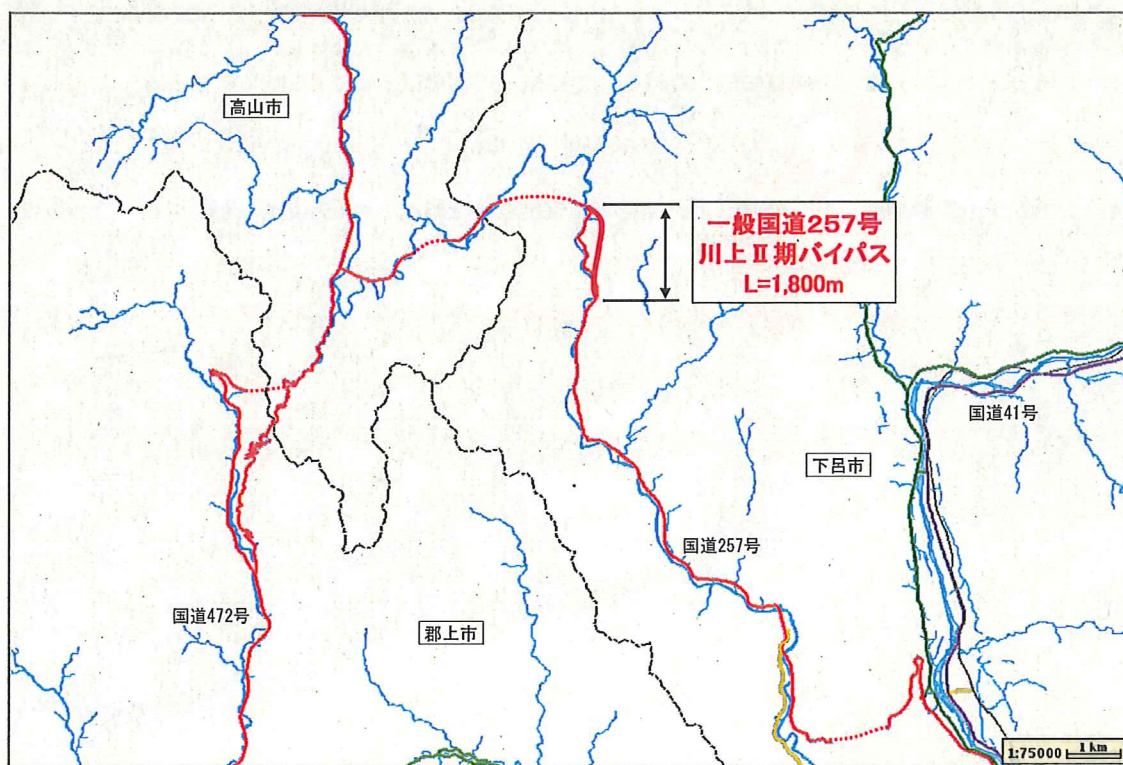
一般国道257号 川上Ⅱ期バイパス

県土整備部道路建設課
平成24年11月

位置図 ①

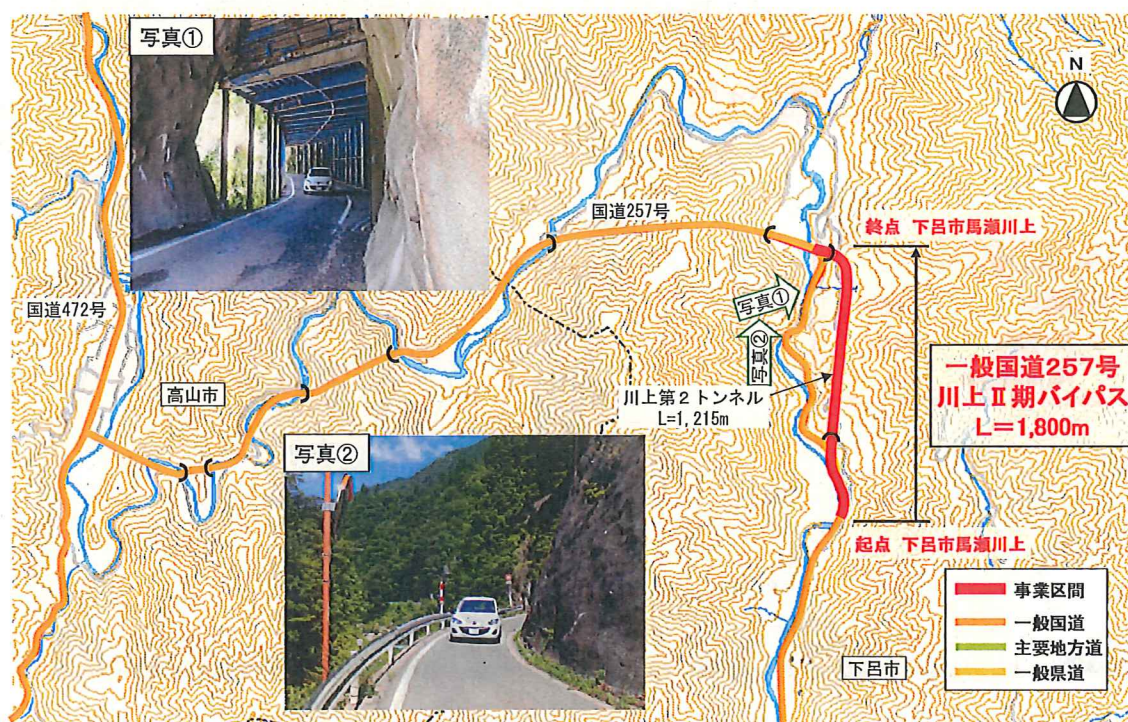


位置図②



2

位置図③



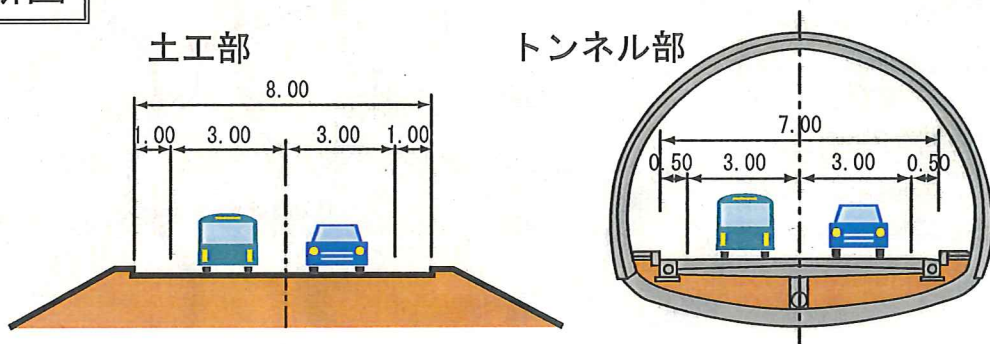
※構造物名は仮称

3

事業概要

- ◆ 起 終 点 : げろしまぜかおれ げろしまぜかおれ
下呂市馬瀬川上～下呂市馬瀬川上
- ◆ 全体延長 : 1,800m (トンネル延長L=1,215m)
- ◆ 総事業費 : 約41億円
- ◆ 事業着手 : 平成20年度
- ◆ 完成予定 : 平成28年度以降
- ◆ 幅 員 : 車道 3.00m×2車線

標準横断図



4

社会情勢の変化

◆ 周辺道路の無料化

- 飛騨美濃道路の無料化に伴い、せせらぎ街道の交通量が増加
- せせらぎ街道沿線の観光施設の入込客数が増加



年間観光入込客数 [※2]	
道の駅 パスカル清見	
(H21)	(H23)
12.7万人	13.6万人
道の駅 明宝	
(H21)	(H23)
24.0万人	26.1万人

[※2]岐阜県観光レクリエーション動態調査(H22・23)

5

事業の目的①

活力：圏域間の連携強化に寄与

■国道257号は、岐阜県の道路事業の整備方針である「県土1700km骨格幹線ネットワーク構想」のうち、「骨格幹線補完ネットワーク道路」に位置付け



6

事業の目的②

活力：地域間の観光交流や産業振興の推進

■下呂市、高山市、郡上市間の観光地の連携強化による、観光の振興が期待される。

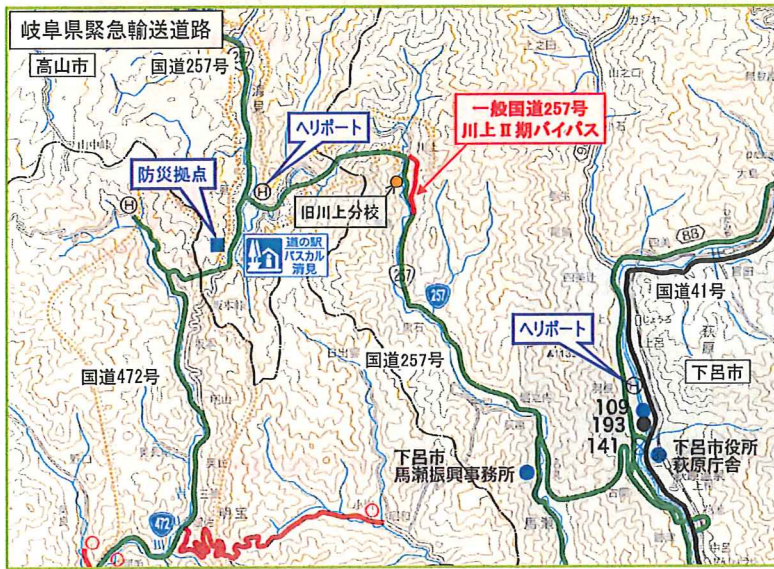


7

事業の目的③

安全・安心：災害時に有効に機能するネットワークの確保

- 国道257号は第2次緊急輸送道路に指定。
- 当該区間は、防災拠点である道の駅パスカル清見と下呂市馬瀬振興事務所を接続する経路。



■ 災害時の通行を確保する道路として川上Ⅱ期バイパスを整備

- 【凡例】
- : 第1次緊急輸送道路
 - : 第2次緊急輸送道路
 - : 第3次緊急輸送道路
 - : 県出先機関
 - : 国関係機関
 - : 市町村役場
 - : 災害医療拠点
 - : 防災拠点
 - : 消防
 - ⊗ : 警察署
 - : 避難場所

8

事業の目的④

安全・安心：隘路・線形不良箇所への解消による円滑な交通の確保

- 狭隘区間・線形不良箇所が解消され走行性が向上。
- 大型車通行不能区間の解消。



9

進捗状況

全体進捗率 9%*

用地補償進捗率 67%*

工事進捗率 8%*

(うち用地取得進捗率 100%)

※ 平成24年度末事業費ベース



10

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 95%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 4%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.1$$

※費用便益分析マニュアル(国土交通省H20.11)に基づき算出

11

コスト削減の取り組み

◆トンネルずりの有効利用

当初：発生するトンネルずり7万m³を下呂市内の民営残土処分場(要投棄料)へ運搬し、適正処分の計画



見直後：工事箇所近隣の民間造成工事へ流用予定



発生するトンネルずりのうち、3.4万m³を近隣の民間造成工事へ流用し、残土処分費を縮減する予定

約5千万円のコスト縮減

12

自然環境への配慮

◆希少猛禽類に配慮した工事を実施予定

■工区周辺に希少猛禽類「クマタカ」の生息が確認されたため、モニタリング調査を実施し、有識者のアドバイスを受けながら工事を実施予定。

<事前調査>

- ・周辺に配慮すべき生物(クマタカ)確認



<施工計画(予定)>

- ・低騒音、低振動型建設機械による工事実施
- ・トンネル掘削時の発破音低減のため、坑口に防音屏を設置
- ・クマタカ営巣地方面に夜間照明が漏れないようフード付機器を採用



<専門家へのヒアリング及び施工中のモニタリング>

- ・専門家へのヒアリングにより対策の妥当性を確認
- ・施工中の繁殖状況をモニタリング
- ・対策の効果検証、施工計画へのフィードバック

希少猛禽類「クマタカ」



※クマタカ(タカ目タカ科)

- 分布[岐阜県HPより引用]

北海道、本州、四国、九州に分布。県内では、飛騨市、高山市、郡上市、下呂市、揖斐川町、本巣市、八百津町などの山地帯で広く繁殖が確認されている。

- 貴重性

環境省RDL 絶滅危惧IB類
岐阜県RDL 絶滅危惧II類

13

今後の方針

○川上Ⅱ期バイパスの完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元商工会、観光協会及び下呂市から現道の視距改善及び拡幅を求め、早期完成・事業促進の強い要望がある。



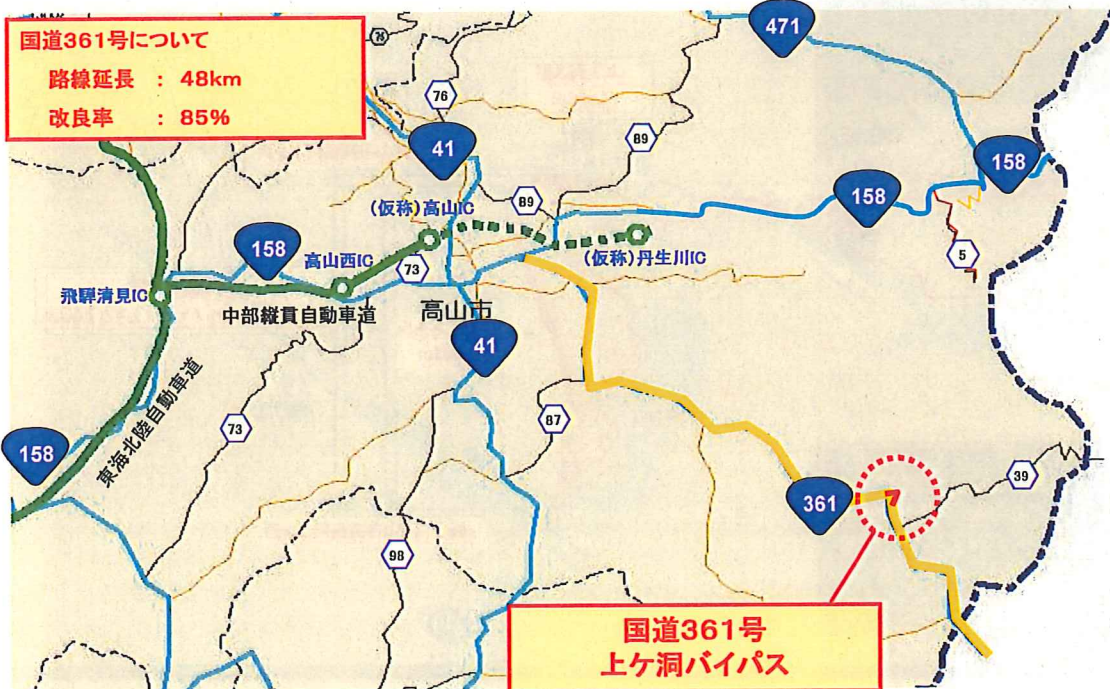
＝供用に向け、事業継続＝

事業再評価
道路改築事業

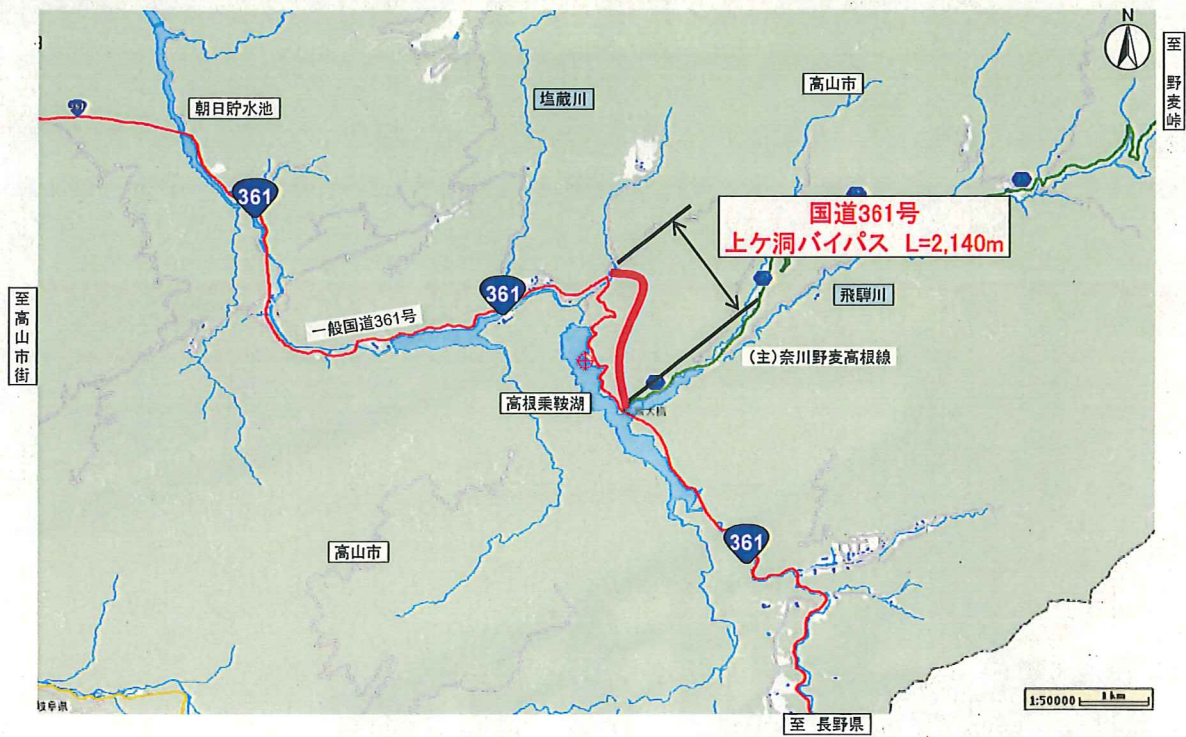
国道361号 上ヶ洞バイパス

県土整備部 道路建設課
平成24年11月

位置図①



位置図②



2

位置図③

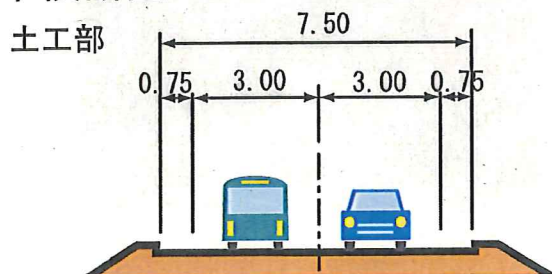


3

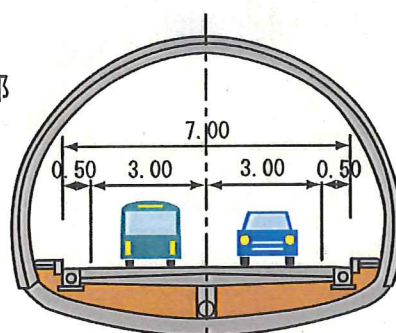
事業概要

- たかやま たかねまち かみがほら たかやま たかねまち かみがほら
- ◆起終点：高山市高根町上ヶ洞～高山市高根町上ヶ洞
 - ◆全体延長：2140m（内橋梁延長：86m）
（内トンネル延長：1981m）
 - ◆総事業費：約60億円
 - ◆事業着手：平成15年度
 - ◆完成予定：平成28年度以降
 - ◆幅員：車道3.00m×2車線

標準横断図：歩道なし



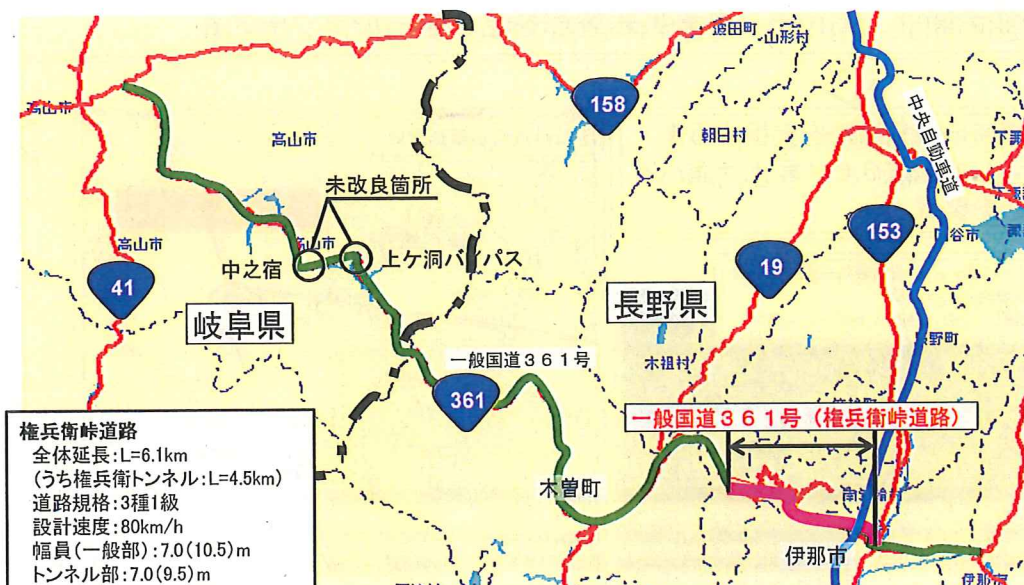
トンネル部



4

社会情勢の変化

- 国道361号は、岐阜県高山市～長野県伊那市を結ぶ重要な幹線道路
- 長野県側の塩尻市～伊那市に至る区間は、平成18年に地域高規格道路（権兵衛峠道路）として整備され、長野県側の道路改良はほぼ完了
- 近年は、国道361号の長野県側、越県部について交通量が増加傾向
- 中央自動車道、国道19号～岐阜県（高山市）を連絡する幹線ネットワーク形成



事業の目的①

安全・安心：雨量規制区間の解消

■上ヶ洞バイパスの整備により雨量規制区間が解消され、常時通行可能となり通行規制による迂回を解消



【雨量規制区間】
 時間雨量：80mm以上
 連続雨量：120mm以上で通行止め※
 ※【異常気象時の通行止め回数】
 2回（平成19年～平成24年現在）



6

事業の目的②

安全・安心：現道に代わる新たな緊急輸送路の確保

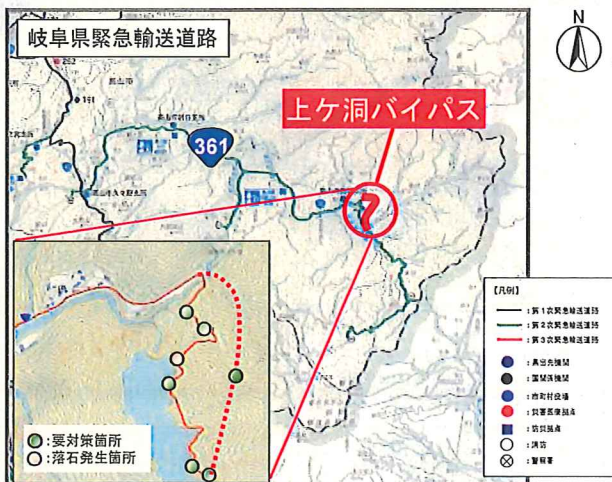
- 国道361号は第2次緊急輸送道路に指定
- 当該区間に並行し、長野県へ越県可能となる緊急輸送道路は、北側の国道158号のみ
- 当該区間は、高山市～長野県木曾郡を結ぶ唯一のアクセス路

■災害時の緊急活動を支援する道路として国道361号上ヶ洞バイパスを整備

■国道361号における災害対策箇所・履歴
 要対策箇所数：6箇所
 落石履歴：1回（平成21年～24年）



写真：落石状況(上ヶ洞地内)
 災害発生日：平成21年7月9日

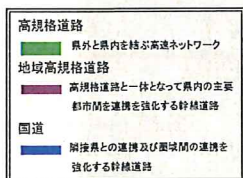


7

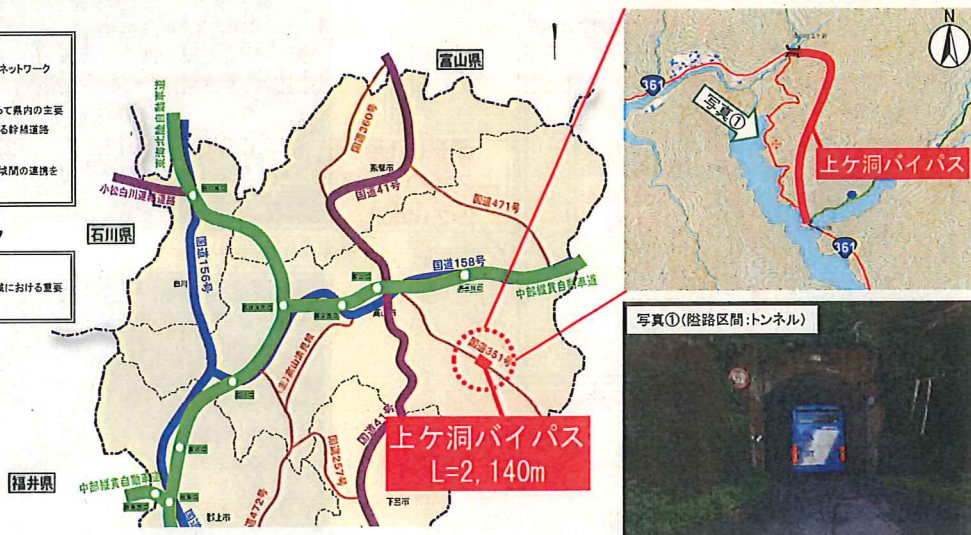
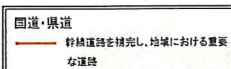
事業の目的③

活力:隣接県との連携及び圏域間の連携強化に寄与

- 線形も悪く幅員狭小のため、大型車のすれ違いが困難
- 国道361号は、岐阜県の道路事業の整備方針である「県土1700km骨格幹線ネットワーク構想」のうち、「主要骨格幹線ネットワーク道路」に位置付け
- 上ヶ洞バイパスの供用により円滑な交通を確保



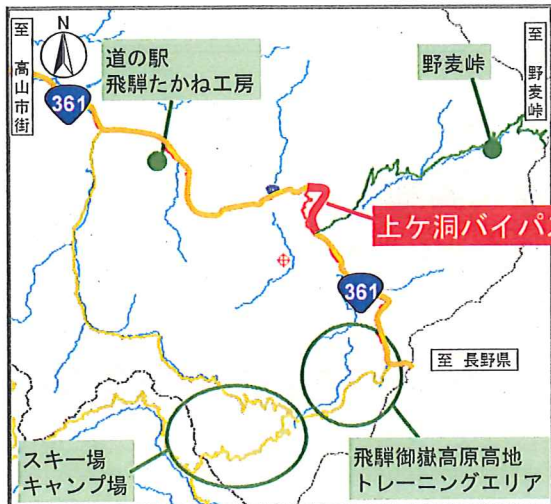
骨格幹線補完ネットワーク



事業の目的④

活力:観光交流や産業振興の推進

- 高山市高根町は多くの観光資源を保有しており、県内外からも多くの観光客が利用
- 上ヶ洞バイパスの整備により、観光周遊による観光交流からの観光客の増加や関連産業の活性化が期待



■年間観光入込客数【※1】

スキー場・キャンプ場(高根)	15.8万人
飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア	1.8万人
道の駅飛騨たかね工房	5.6万人

【※1】岐阜県観光レクリエーション動態調査(H22)



飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア



道の駅飛騨たかね工房

進捗状況

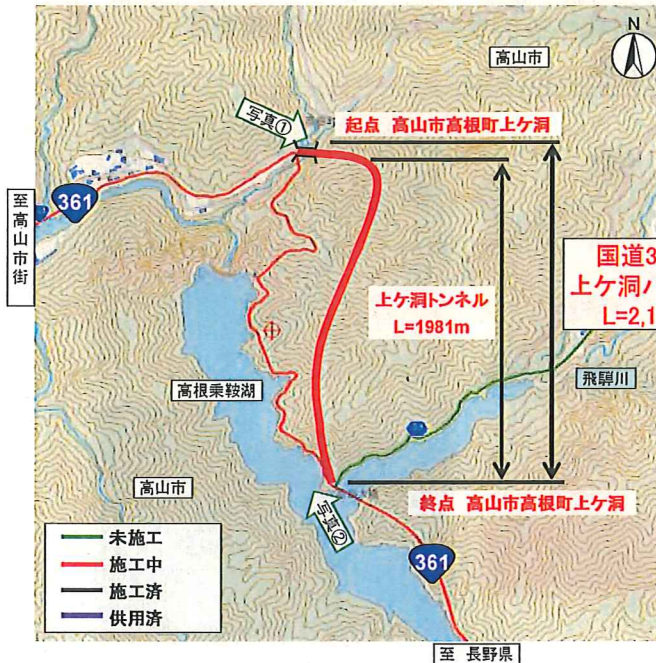
全体進捗率 38%*

用地補償進捗率100%*

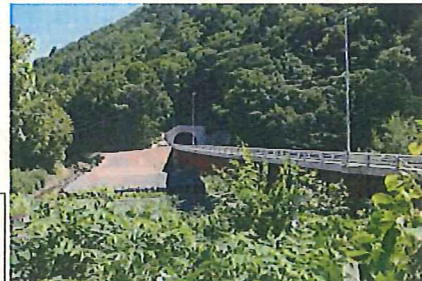
工事進捗率38%*

(うち用地取得進捗率 100%)

※ 平成24年度末事業費ベース



写真①(起点側)



写真②(終点部)



10

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 91%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 8%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.2 \text{ (全体)}$$

※費用便益分析マニュアル(国土交通省H20.11)に基づき算出

11

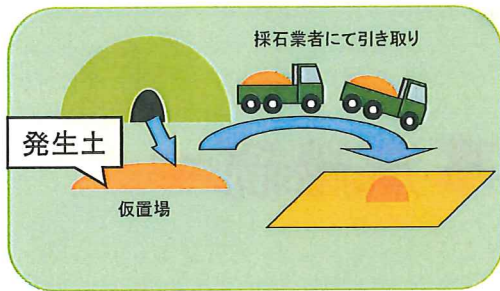
コスト削減の取り組み

◆現場発生土の流用・運搬計画の見直し

当初：高山市内の病院造成工事等へ運搬し、流用する計画

見直後：現場発生土を現場付近の仮置場へ運搬し、採石業者へ引き渡すことで、運搬距離の縮減、発生土の有効活用

残土運搬費の削減



約9千万円のコスト削減

12

自然環境への配慮

◆希少猛禽類に配慮した工事を実施

- 工区周辺に生息する希少猛禽類「クマタカ」に配慮し、モニタリング調査を実施し、有識者のアドバイスを受けながら工事を実施。
- 騒音・振動を最小限とするため、低騒音、低振動型建設機器による工事の実施や坑口に防音壁を設置、夜間照明に配慮

<事前調査>
・周辺に配慮すべき生物(クマタカ)確認

<専門家へのヒアリングおよび本調査>
・猛禽類への施工時の影響把握

<騒音調査>
・騒音レベルは、ほとんど影響なし
・野鳥専門家における現場の立ち会いにおいて、ほぼ無影響であることを確認

<工事中>
・低騒音、低振動型建設機器による工事実施
・トンネル掘削時の発破音低減のため、坑口に防音壁を設置
・周辺環境に同調させるため、仮設備照明にナトリウム灯使用



希少猛禽類「クマタカ」



仮設備照明：ナトリウム灯

※クマタカ(タカ目タカ科)

●分布

北海道、本州、四国、九州に分布するが西日本では減少しているという。国外では東アジア、台湾に分布する。県内では、飛騨市、高山市、郡上市、下呂市、揖斐川町、本巣市、八百津町などの山地帯で広く繁殖が確認されている。

●貴重性

環境省RDL 絶滅危惧Ⅲ類
岐阜県RDL 絶滅危惧Ⅱ類

13

今後の方針

○国道361号上ヶ洞バイパスの供用は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○高山市、国道361号改修促進期成同盟会及び国道協会から現道の視距改善及び拡幅を求め、早期完成・事業促進の強い要望



＝供用に向け、事業継続＝

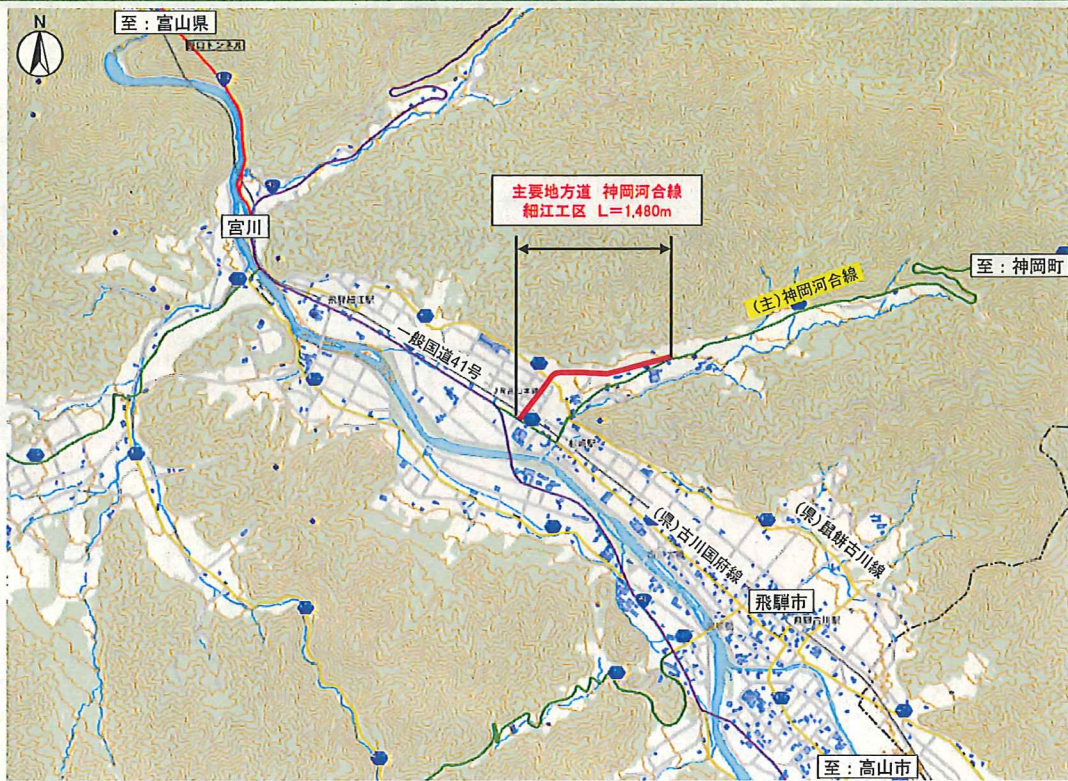
事業再評価 道路改築事業

主要地方道 神岡河合線 細江工区

県土整備部道路建設課
平成24年11月

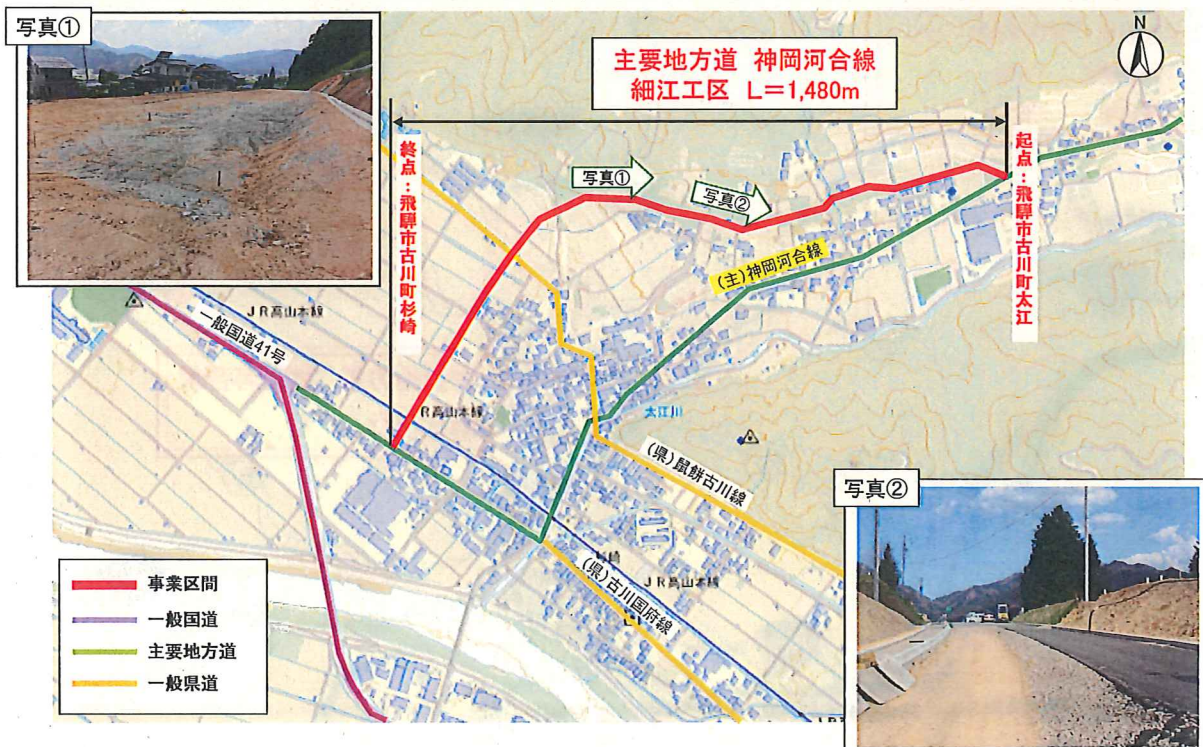


位置図②



2

位置図③

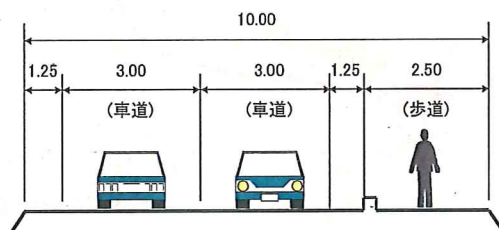


3

事業概要

- ◆ 起 終 点 : 飛 騨 市 古 川 町 太 江 ~ 飛 騨 市 古 川 町 杉 崎
- ◆ 全 体 延 長 : 1, 4 8 0 m
- ◆ 総 事 業 費 : 約 1 7 億 円
- ◆ 事 業 着 手 : 平 成 1 4 年 度
- ◆ 完 成 予 定 : 平 成 2 8 年 度 以 降
- ◆ 幅 員 : 車 道 3. 0 0 m × 2 車 線
歩 道 2. 5 0 m (片 側)

標準横断面図



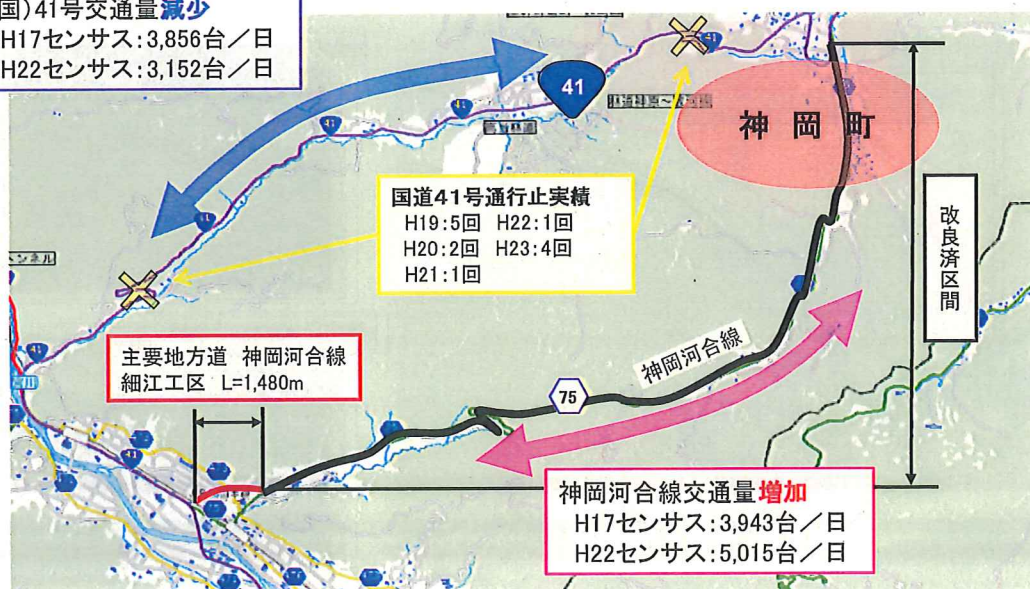
4

社会情勢の変化

- 神岡河合線は、神岡町～飛騨市中心部を結ぶ主要な路線であり、国道41号の代替路として機能
- この間における神岡河合線の道路改良状況は、細江工区のみが未整備
- 近年、交通量も増加しており早急な整備が求められている

(国)41号交通量減少

H17センサス:3,856台/日
H22センサス:3,152台/日

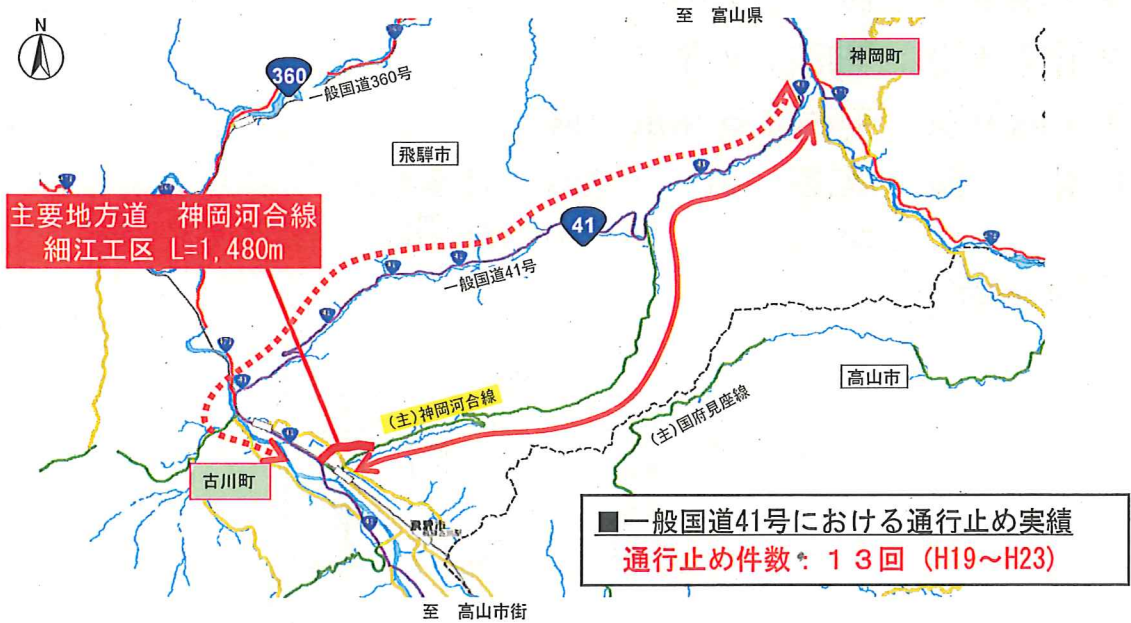


5

事業の目的①

安全・安心：国道41号の代替路として機能

■ 国道41号の代替路として、神岡町～古川町間の交通を支援する重要なアクセス道路

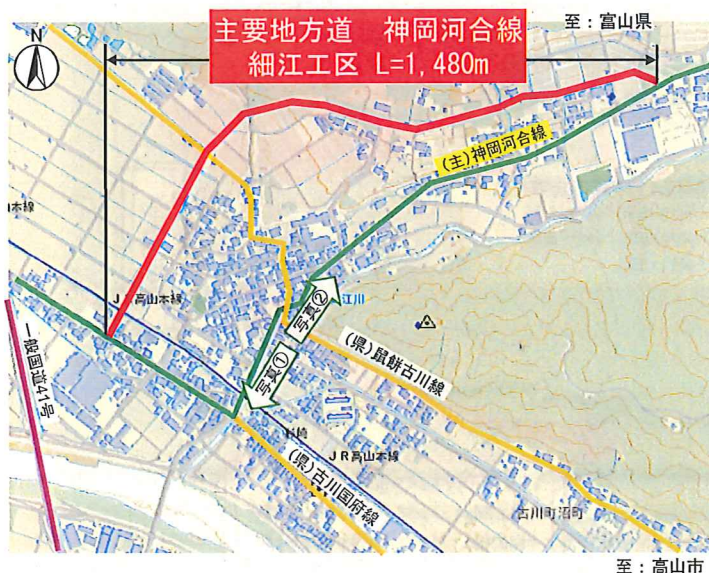


6

事業の目的②

安全・安心：隘路・線形不良箇所への解消による安全・安心な交通の確保

■ 幅員狭小区間の解消により、円滑な交通を確保
 ■ 歩道を整備し、歩行者の安全性を確保



写真①



写真②(幅員狭小区間)



7

進捗状況

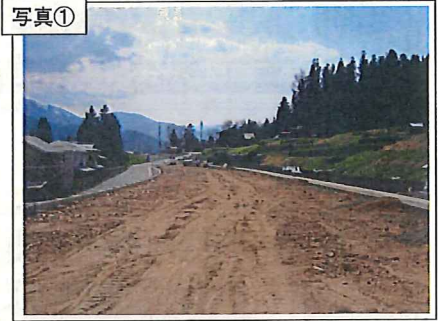
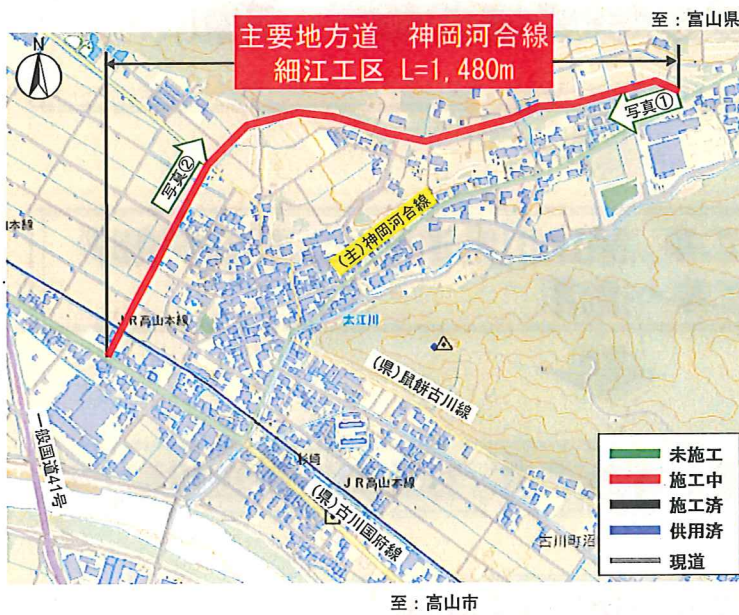
全体進捗率 58%※

用地補償進捗率 54%※

工事進捗率 59%※

(うち用地取得進捗率 82%)

※ 平成24年度末事業費ベース



8

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 80%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 17%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 3%

投資的効果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.9 \text{ (全体)}$$

※費用便益分析マニュアル(国土交通省H20.11)に基づき算出

コスト縮減の取り組み

◆現場発生土の有効利用、処分費縮減

当初：飛騨市内の市営残土処分場(要投棄料)へ運搬し、
適正処分の計画



見直後：飛騨市内改良工事、高山市県道改良工事及び飛騨
市保育園造成工事へ流用



発生土1.1万m³を他事業で有効活用、残土処分費を縮減

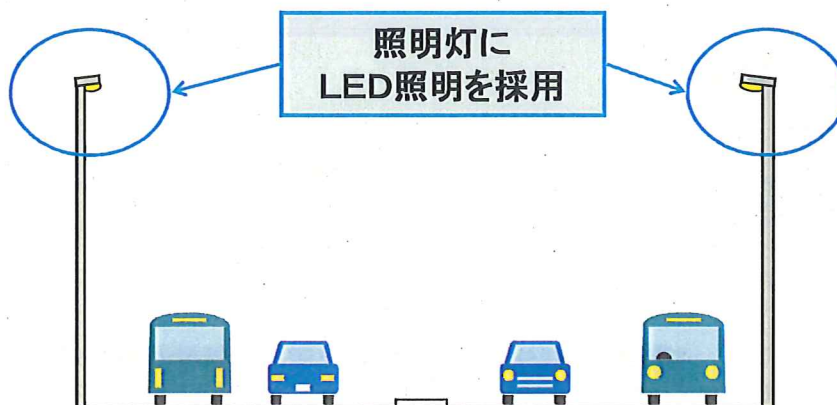
約4千万円のコスト縮減

10

自然環境への配慮

◆LED照明の採用による環境への配慮

■長寿命かつ低消費電力であるLED照明を交差点部の
新設照明灯に採用し、蛍光ランプを用いた場合に比べ
環境負荷を低減する



今後の方針

○(主)神岡河合線 細江工区の供用は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元協力会、飛驒市及び地元整備期成同盟会から合併後の市内交流に必要不可欠な路線の改良として、本バイパスの早期完成・事業促進の強い要望



＝供用に向け、事業継続＝

事業再評価
道路改築事業

主要地方道 国府見座線
十三墓峠工区

県土整備部道路建設課
平成24年11月

位置図 ①



位置図②



2

位置図③

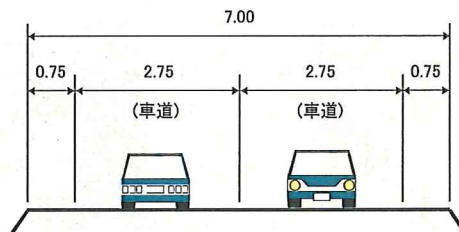


3

事業概要

- ◆ 起 終 点 : たかやましこくふちようようかまち 高山市国府町八日町 ~ たかやましこくふちようようかまち 高山市国府町八日町
- ◆ 全体延長 : 1, 740m
- ◆ 総事業費 : 約24億円
- ◆ 事業着手 : 平成20年度
- ◆ 完成予定 : 平成28年度以降
- ◆ 幅 員 : 車道 2.75m × 2車線

標準横断図



4

社会情勢の変化

- 高山市上宝町地内からの疾患患者の救急搬送ルートは、上宝町⇒高山市への最短ルートとなる主要地方道国府見座線を利用
- 上宝地内⇄高山市を連絡する路線バス（国府・上宝線）が、地元の強い要望により平成18年度にバスダイヤが改正され、上宝と高山市を往来するバスが増便



【緊急時】
 緊急車両走行件数
 （上宝町⇄高山市）
 救急69件
 火災7件
 高山市消防署
 (H21.1~24.10)

【平常時】
 路線バス走行件数
 （上宝町⇄高山市）
 H18年 2本
 H24年 4本
 高山市HPより

事業の目的①

安全・安心：隘路箇所への解消による円滑な交通の確保

- 国府見座線は、上宝地内⇄高山市を連絡する主要な路線であり、路線バス（国府・上宝線）や通勤・通学の日常生活ルートとして利用
- 幅員狭小区間の解消により、走行性・安全性が向上



6

事業の目的②

安全・安心：上宝町と高山市を結ぶ救急活動ルートの確保

- 高山市上宝町地内からの疾患患者の救急搬送ルートは、上宝町⇄高山市への最短ルートとなる主要地方道国府見座線を利用
- 救急活動ルートの安全性の確保



※緊急車両走行件数
（上宝町⇄高山市）
救急 69件
火災 7件

高山市消防署 (H21.1~24.10)

7

事業の目的③

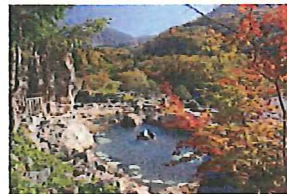
活力: 観光地へのアクセス性が向上し、観光交流や産業振興が活性化

■ 上宝ふるさと歴史館や奥飛騨温泉郷など周辺の観光・レジャー施設へのアクセスが向上し、観光客の増加や関連産業の活性化が期待できる



■ 年間観光入込客数[※1]
 奥飛騨温泉郷 : 66.1万人
 道の駅「奥飛騨温泉郷上宝」 : 13.3万人

[※1]岐阜県観光レクリエーション動態調査(H22)



奥飛騨温泉郷



道の駅
奥飛騨温泉郷上宝

8

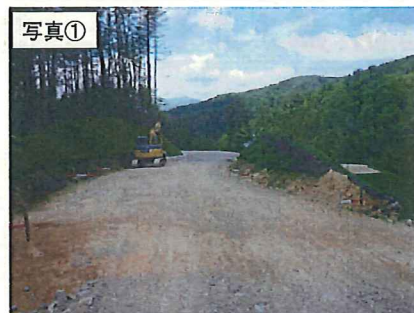
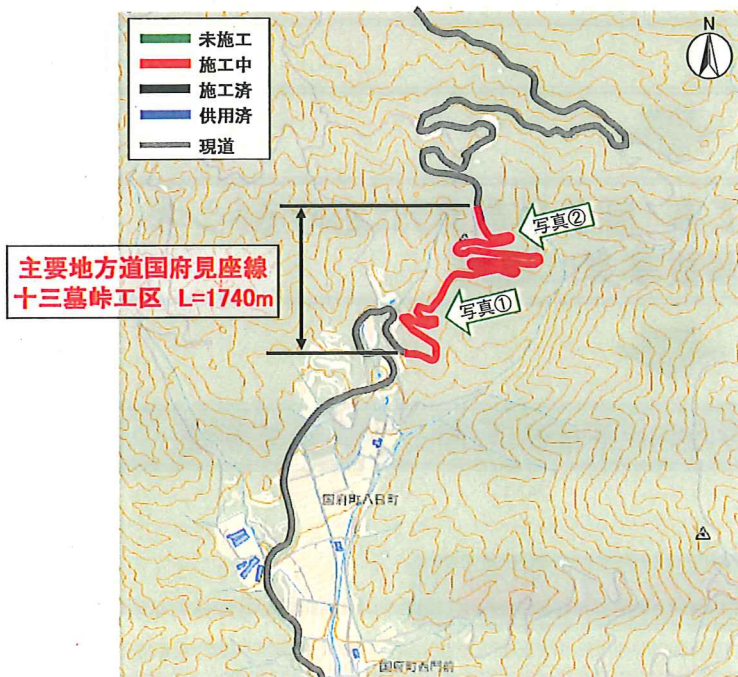
進捗状況

全体進捗率20%※

用地補償進捗率100%※

工事進捗率19%※

※ 平成24年度末事業費ベース



9

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 89%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 10%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.1 \text{ (全体)}$$

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

10

コスト縮減の取り組み

◆他事業における現場発生土の有効活用

当初：購入土を盛土に使用



見直後：高山国府トンネル工事（国交省事業）におけるトンネル掘削で発生するずりを、当該事業に流用



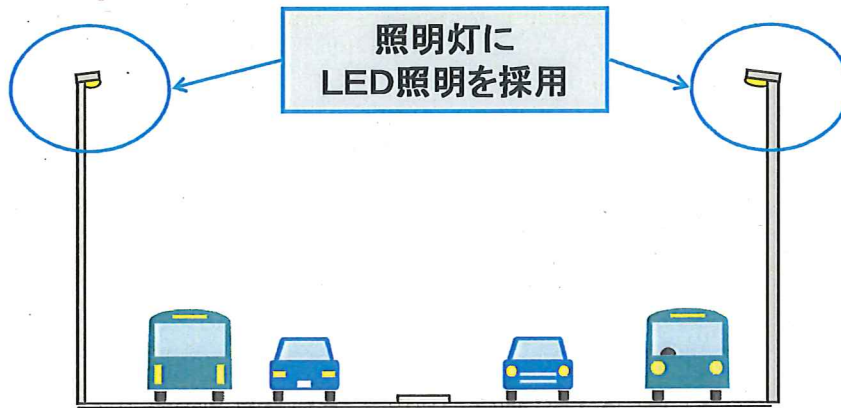
他事業における現場発生土3700m³を有効活用し、購入費の削減

約1千万円のコスト縮減

自然環境への配慮

◆LED照明の採用による環境への配慮

■長寿命かつ低消費電力であるLED照明を橋梁新設照明灯に採用し、蛍光ランプを用いた場合に比べ環境負荷を低減する



今後の方針

○（主）国府見座線 十三墓峠工区の供用は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元協会、高山市及び地元整備期成同盟会から現道の視距改善及び拡幅を求め、早期完成・事業促進の強い要望



＝供用に向け、事業継続＝